

交通Bulletin

2006 年 春季号, No.11

発行日：平成18年4月1日
 発行：日本大学理工学部
 社会交通工学科教室
 ☎ 047-469-5239（教室事務）
 発行責任者：星埜正明（教室主任）
 編集担当：伊東 孝・岸上明子・野水雅之
 制 作：株式会社 テイクアイ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY・COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY・NIHON UNIVERSITY

■ CONTENTS ■

巻頭言：伊澤 岬	1	海外出張	28
平成18年度 研究室紹介	3	助成研究・委託研究	29
平成17年度 博士論文・修士論文・卒業研究	13	受賞	29
平成17年 教員の研究・活動（2005. 1. 1～2005. 12. 31）		平成17年 学生の活動（2005. 1. 1～2005. 12. 31）	30
研究業績	16	平成17年度 就職状況	31
社会的活動	24	[TOPICS]	
学外学術活動	26	共立出版刊『交通バリアフリーの実際』	30

今、時代の変化をつかめ ―チャンスは君たちのものだ！―

伊澤 岬

◇ 容疑者ホリエモンの場合

時代の変化を読んだ龍児が今や、没落の容疑者となったホリエモン。堀江容疑者に対する評価は二分する。新興ネット企業ライブドアがニッポン放送の株式大量取得で、ネットと放送の融合を加速させ、個人がブログなどで発信することで、市民が情報を発信する時代になるという理念の一方で、自らがネットバブル相場の牽引役となり、さらに個人株主を急増させ相次ぐ株式分割という新たな試みを展開した。このようななかで風説の流布すなわち、相場を変動させたり売買で利益を得たりする目的で意図的な情報を流すことが法に触れるということで容疑者の身になった。

これはちょうど、80年代後半のバブル経済時、地価上昇で膨らませた資産価値を担保に借金してまた土地を買う経営手法に似ている。

一方、容疑者の行った既存のメジャー企業への買収攻勢は、長年の株式の持ち合いによる日本の伝統的な商習慣に挑戦し日本に新たな息吹をもたらした一面もあったとの評価もある。まさに彼は、経済における創造的破壊者とも言うべき存在であった。

経済における龍児から容疑者への劇的転換に対して、建設においても戦後の高度経済成長後の強者の論理が、高齢者・身障者弱者を配慮した論理へとコペルニクス的転換をした。その象徴として近年の「まちづくり」「交通バリアフリー法」「ハートビル法」「ユニバーサルデザイン政策大綱」「美しい国づくり政策大綱」「バリアフリー新法」などの政策や法制度の整備に新しい時代の変化をつかむことができる。

そこで、建設における時代の変化を見事につかんだ身近な学科OBの岩坂照之さんの活躍と、私の研究室における戦略、福祉とまちづくりへの活動の広がりや意義のなかに、具体的な時代の変化のつかみ方、チャンスのつかみ方のヒントがあればと考える。

◇ 学科OB 岩坂さんの場合

新興の著名出版社、幻灯舎刊の『前田建設ファンタジー営業部』が大型書店に並んだ。表紙からして軽い。目に留まったものの手にとることはなかった。しかし3大紙の2紙の書評欄に掲載され、ついに本人の顔写真まで紹介されて著者が事実上学科OBの岩坂さんであることが記者のインタビューで明かされた。その内容は、かの巨大ロボット「マジンガーZ」の格納基地を実際に作ろうと、アニメ放送をベースに、建設会社として専門的に施設の仕様を読み取り、図面を引いて技術的な可能性を検討した。そして工法や設備などによって現在の技術的な可能性を示した。具体的には立て坑を掘り、堅固な地下空間を構築し、マジンガーZ本体を持ち上げるジャッキアップのシステムの構築、そして所要時間はアニメどおり10秒以内に抑えたそうだ。さらに敵襲に耐える強度は原子力発電所工事を参考にし、地下水圧の影響は社内外の専門家に知恵を借りるなど、難題を一つずつ乗り越えた。その結果、総工費72億円、工期6年5ヵ月と結論付けた。

建設業のイメージアップを岩坂さんが同僚に持ちかけたのが事の始まりで、社内に架空の「ファンタジー営業部」を作り、IT世代をターゲットにホームページで進行状況を公開すると予想を超える反響を呼び、これが出版につながったという。

「アニメ」「ファンタジー」「IT」これらは、これまでの建設会社ではイメージできなかった新しい方向性であった。

この彼は14年前、卒業設計で房総水の回廊構想における「花見川ロック」をまとめた。在学中研究室でのコンペの下働きを経験し、受賞のお裾分けで、コンペの醍醐味を会得してしまった。

入社後アクアラインのトンネル工事の現場を勤めながら1996年に前田ほか建設会社が、技術開発を推進し創造性発揮の場を提供することを目的としたアイデア応募に参加した。この最優秀案「Ring & Box」が彼の新たな活躍の第一歩とな

った。阪神大震災直後であり、実現性より未来的なまちづくりを提案した。具体的にはオフィスビル群を浮体構造として全て海上に移行。免震構造で、陸上部の自然環境復元や船舶中心の通勤による低エネルギー消費を提案。さらに波対策として巨大な環状防波堤を建設し、潮の干満および昼夜人口増減による内外水面差から発電の提案もしている。

翌1997年運輸省主催、審査委員長八十島義之助先生の「海のアイデア」コンペに参加、企画部門、個人部門で最優秀賞を受賞。提案した「Sea・Sweeper」は、クラゲのように湾内を浮遊しながらヘドロと水を浄化する巨大な浮島。東京湾など汚れた湾内をゆっくりと移動しながらヘドロを吸い上げ、島内で脱水・焼成し、無害物として海に戻そうとするものである。島のまん中には浄化のための池を設置、汚れた海水を取り込み、エアレーション装置により水質改善も行う。海にふわふわ浮かびヘドロに触手を伸ばしているようすがクラゲに似ている。

社内における岩坂さんの特殊能力を見抜いた前田又兵衛会長は岩坂さんを社費で埼玉大学大学院政策科学研究科に国内留学させ、その成果は修士論文「日本版 PPP (Public Private Partnership) 実施方法の提案」としてまとめられた。これは、民間資金を活用して公共施設を建設維持運営する PFI の本格稼動を前に、現行法および税制上の問題、民間金融機関のプロジェクトに対して融資する経験不足、そして煩雑な手続きを明確にし、それを克服する発注方法を提案している。さらに昨年度、やはり社費で高知工科大学工学研究科基礎工学専攻博士課程に進学し、学位論文「創知の杜の実現シナリオ」をまとめ、工学博士を授与された。主査はハイパフォーマンスコンクリートの権威、岡村甫学長であった。少子高齢化時代の到来と持続的社會への移行に対応する実現可能な新しい暮らし方について、少子高齢化が進む高知を計画地に提案、かつ経済的持続性についてケーススタディーを行ったものである。

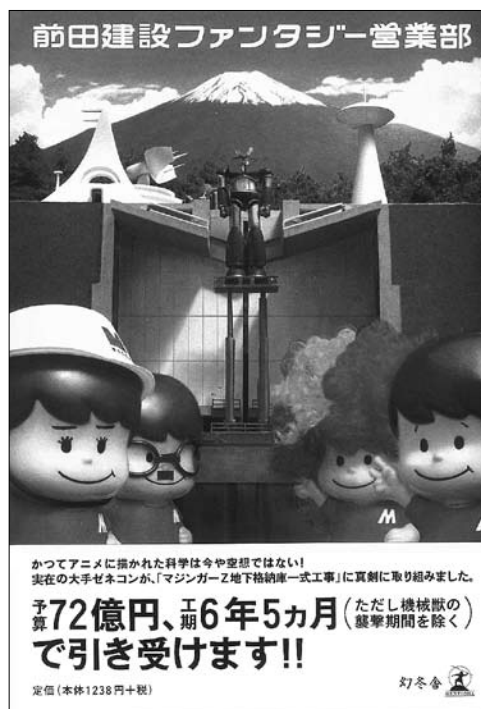
ゼネコンに入社し、現場を起点に紹介したような様々な活動には、既存の価値観にとどまることなく、新しい時代を捉えようとする姿勢が読み取れる。

◇ 研究室の場合

建設における研究室の新たな挑戦を述べる。専門のデザインの教育、研究では、卒業・修士設計作品展示会や企画展さらにその報告書を通じての外部評価を積極的にはかり、他大学に負けない時代の変化に対応した展開をはかっているが、これは当然のことで、この専門以外の活動テーマが、「福祉」であり「まちづくり」である。

具体的には、大学キャンパスが立地する地域の活性化が国を元気にすることができるという仮説のもと、地域の人々の視点に立って自ら NPO を組織し、身障者を含む市民との活動の中に社会の求める方向性を模索しようという実証的な研究活動である。これまでの統計的な研究での平均値的データを基礎に中央官庁直結型の解決方法では対応できない新たな分野への挑戦である。

このような状況は、近年の国の新たな施策にも感じることができるようになってきた。その中心をなすのがユニバーサルデザイン政策大綱で、これを骨子としてポスト交通バリア



写真①『前田建設ファンタジー営業部』(幻冬舎)

フリー法として建築との乗り入れをはかったバリアフリー新法制定に向かい、今通常国会にこの法案を提出予定である。これは、利用者の視点に立ち連続的なバリアフリー化のためにハートビル法と交通バリアフリー法の一体化に向けた法制度を構築するものである。これによって土木と建築の融合の法的根拠が芽生え、この結果都市はアクセシブルで、デザインフルに再生できるものと考えたい。

また景観法は、このユニバーサルデザイン大綱に先立って制定されたもので、2004年閣議で観光立国行動計画がまとまり、国土交通省の進める国づくり政策大綱として国の重要政策の法的着地点の一つとなった。

最も注目すべきこのバリアフリー新法の具体的骨格は、交通バリアフリー法をベースにして、建築における福祉対応を規定したハートビル法を再構築するもので、景観法における、市民参加の対応がこの新法にも大きく反映している。具体的には供給者側、すなわち官側ではなく利用者側の立場に立った参加型の施策を進めることであり、様々な施策や評価を通じて持続的、段階的に取り組むものである。

さらに私たちの研究室では今、「観光」と「福祉・まちづくり」が合体した観光ユニバーサルデザインの研究を進めている。

このような活動から、いままで求められてきたような短期的かつ、画一的な施設整備でなく、同じ目的に対してもいく種類かの対応方法を示し、地域の変化にも柔軟に対応できるような戦略を示すことが重要であると考えます。

岩坂さんの活動、研究室での新たに展開しようとする方向が正解か、不正解かを諸君が問うことよりも、一人一人が時代の変化を的確につかめるよう、幅広いスタンスで時代を読もうではないか。より豊かで人間的なスーパーヒルズを目指して。

交通景観 研究室

天野光一 教授

岸上明子 助手



●研究室内の目標、研究分野

究極の目標

- ・「美しい国土、住みやすい地域、都市をつくる」

研究内容

後述の3分野を基本に、加えてその間の学際的な研究を目指す。

①景観分野：本研究室内の基本的な研究分野である。居心地のよさをも含むが、極論すればどのようにしたら美しい風景を創造できるかを研究する。

②観光分野：観光とは国の光を観ることである。景観を含む国の光をどのように創造し、どのように見せるかを研究する。

③交通分野：人が存在するところ必ず交通は生じる。交通空間・施設をどのようにつくりあげるか、また住みやすさを保障する交通はどのようなものかを研究する。

●研究室内の活動

- ・基礎的能力の育成、資料の収集、現地の見学
- ・究極の目標にかかわる研究の実施

卒業論文、修士論文の研究テーマについては、基本的には研究室側から与えることなく、学生が興味のあること、やりたいことを提案し議論の上決定する。

●研究テーマ

- ・景観原論：景観の認識などにかかわる原論的テーマ、例えば場の景観としての八景の研究や、シークエンス景観の研究など。

・景観計画・設計論

・交通空間・施設の計画・設計関係：特に交通空間・施設に関する計画・設計論、例えば駅空間に関する研究など。

また、天野が個人的に景観に配慮した防護柵の開発に関わっているが、研究室のテーマに取り入れていきたい。

・都市史関係（アジアの都市を含む）：景観、交通、観光などに視座をおいた都市開発史研究、過去の都市の開発発展に着目し、今後の都市づくりの参考とする。例えば、日本国内の都市史研究に加えて、タイ・バンコック、ベトナム・サイゴンなどの研究など。

・観光計画関係：観光地の発展過程の研究などを行っている。例えば、温泉観光地の研究など。

・地域づくり関係

・都市計画関係

●ゼミナールの内容

- ・専門書、論文の輪読
- ・現地見学、調査
- ・計画設計実務にかかわる調査
- ・ディベートの実施 など

●研究室に向く人、向かない人

・向く人 景色を見るのが好きな人、本を読むのが好きな人、議論をするのが好きな人、旅行が好きな人、雑学にたけている人、人のために何かできる人

・向かない人 偉くなりたい人、本といえば漫画の人、体系的でなければ気のすまない人、成績が良いのが偉いと思っている人、研究室にいくと就職が有利になると思っている人、あいさつのできない人

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

1. エキナカ空間におけるイメージ評価に関する基礎的研究（平成17年度 修士論文）

本研究では、近年の駅構内施設の整備により、利用者にとって駅空間がどのくらい魅力的になったのかを明らかにする。大宮駅「エキナカ」を研究対象とし、形容詞対を用いたSD法によるアンケート調査に基づくイメージ評価、定点目視観測による区間通過速度と行動パターンの計測に基づく行動特性・空間特性調査を行った。イメージ評価の結果、「エキナカ」空間は乗り換え通路より好ましい空間と認識されていることが分かった。

また、「明るい」、「楽しそうな」、「繁華な」が好ましい空間を決定付ける形容詞といえ、これらの要素を持つ空間においては、通過速度の低下、側路の店舗への顔の動きや立ち止まりがより観察されることが分かった。

2. 鎌倉三十三ヶ所巡り寺院参道にみるシークエンス景観の研究（平成17年度 卒業論文）

本研究は、鎌倉三十三ヶ所巡り寺院を対象に参道景観の変化とそのパターン、各空間要素の役割を知ることが目的とする。各参道を5m間隔で撮影した写真を空、樹木、土・砂利、山門、本堂といった空間要素別に分け、各要素の空間に占める割合の変化、出現比率を求め、参道のパターン分け、各空間要素の役割の考察を行った。本研究より、鎌倉三十三ヶ所巡り寺院は参道距離が短い寺院が多いながら、最終目的地の本堂は、樹木、石段や曲がり角などにより最後まで本堂全体が見えないような工夫がされていること、門などの建造物により、複数回にわたり景観のピークを起こして参道の単調さを打破していることが分かった。



写真②
エキナカ空間



写真③
寺におけるシークエンス景観



写真④
サイゴン（ベトナム）



写真⑤
アルミ製防護柵

情報工学 研究室

中山晴幸 専任講師



情報工学研究室では、人の情報や交通の情報を把握し、それらを利用して交通を利用する人に向けたコンピュータシステムによる様々なアシスト手法の開発を中心に研究を進めています。ここで言う人の情報とは、交通を利用する人の様々な挙動や生体データなどで、例えば歩行者など人の行動記録、人の心理的な変化を電氣的に計測できる GSR（皮膚電気反応）、人がどこを見ているかを記録できるアイマークカメラなどの情報や体温・心拍数などの生体からのデータを指します。また、交通の情報とは、道路や歩行者空間に関する分かりにくいルート案内するための案内情報を指しています。

また、情報工学研究室は学科のホームページやメールサーバの管理もしています。これらサーバは UNIX と呼ばれる OS で作動しています。今年からこの種のサーバを利用した e-learning system を構築する研究も開始する予定です。

●卒業研究テーマ

1. ドライバーの運転疲労推定システムとその管理システムの開発
運転に伴う疲労について、ドライバーに特別な装置を取り付けること無しに疲労を検知するシステムを開発することを目指しています。これについては、「代表研究の紹介」で詳しく説明します。
2. 歩行者の歩行挙動分析と歩行シミュレーション・システムの開発
歩行空間を歩行者がそれぞれの目的地に向かって歩くシミュレーション・システムを開発することを目的とした研究です。歩行者の挙動を分析し、それをモデル化して多様な歩行者空間でシミュレート可能なシステムを構築しています。これまでに、駅コンコースのような広い空間に柱がある場合や

地下通路空間、混み合った横断歩道でのシミュレーションを試みて成果を挙げています。今後は、このモデルを利用したより汎用性の高いシステムを目指しています。

3. 歩行に伴う身体的・精神的負担に関する研究とそれを用いた低負担経路案内手法の検討

高齢者や体の不自由な方々にとって、階段やスロープ、距離があれば平坦な通路も歩行に負担がかかっています。どの経路が歩行に負担が少ないルートなのかを事前に分かれば、外出時に負担が少なく歩行できます。この研究は、歩行時に人間が感じる精神的、肉体的歩行負担をいかに評価し、それを経路案内に利用するかをテーマにした研究です。

4. 巨大ターミナル駅におけるバス案内手法の検討

新宿などの巨大ターミナル駅でのバス案内については、現状では十分な整備がされていないため、初めて利用する利用客にとって非常に分かりにくい状況です。本研究は、現状を調査して把握し、分かりやすい案内手法はどのようにすべきかを検討します。

5. インターネットを利用した e-learning システムの検討

一時期盛んであった CAI（コンピュータ支援による教育）が、インターネットの普及によりネットワークを利用した e-learning として再評価されようとしています。本研究は、e-learning の実態調査と共に、CGI（Common Gateway Interface）手法を用いて、とくに授業支援（予習、復習）を目的としたシステムの構築を目指します。

●ゼミナール・テーマ

ゼミナールでは、次の2つについて実施する予定です。

- ①初級システムアドミニストレータ受験（10月）を目指した勉強会
- ② perl や java など CGI に用いられる言語を使った基礎力学 I に関する e-learning system の作成

●卒業研究、ゼミナール着手条件

とくに条件はありませんが、様々なことに興味を持ち、意欲がある学生を歓迎します。

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

この研究は、ドライバーに特別な装置を装着すること無しに運転疲労を検知し、その程度を推定するシステムとこれを利用したドライバーの安全管理システムを構築することを目的としています。このシステムを構築するために、運転疲労によるドライバーの様々な変化を次に挙げる項目で観測しています。まず、ドライバーが運転による疲れや眠気をどの様に感じているかをアンケートで把握します。さらに、心拍数や体温の変化、唾液中に含まれるストレスホルモンの分泌量、人の心の動揺を捉える GSR（皮膚電気反応）、ドライバーの表情を記録したビデオ画像による評価などの生体情報データの収集と運転挙動の収集です。それらと同時に座席に設置したセンサによるドライバーの無意識な動きを捉えて、その無意識の動きと、得られたアンケート調査や生体データの関係を精査して、最終的に座席センサだけでドライバー運転疲労を検知し、その程度を推定しようとする研究です。

これまでの研究成果によると、ドライバーが疲労や眠気を感じた時に無意識に体を動かす異常姿勢検知回数と総合的な疲労の判断との間に高い相関関係が得られ、座席のセンサによる疲労検知が可能であることを示しました。現在は、実際の長距離トラックにセンサを装着して、実証実験を実施しています。この研究から得られた知見は、国内および国際特許を申請中です。今後は、この成果を利用したドライバーの安全管理システムを構築することを目標にしています。



⑥ ⑦ ⑧ ⑨

写真⑥ ドライバー疲労検知システムを設置した長距離トラック

写真⑦ 異常姿勢検知センサを座席に設置する

写真⑧ ドライバーは通常通り座席に座るだけなので、センサ設置による違和感はない

写真⑨ データロガー（GPSデータ、車速、加速度、異常姿勢など）で様々なデータを長時間記録可能

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 助教授



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージする」ことを目標として研究を進めています。キーワードは「交通まちづくり」「インターモダリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。交通まちづくりの“まち”は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモダリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶といったあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にまた料金などサービス面においてもシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモダリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、政策、理論、技法などについて研究を進めます。

●卒業研究テーマ（予定）

- ・インターモダリズムの確立
- ・公共交通（鉄道、バス、LRT など）による地域活性化
- ・地域 ITS による公共交通活性化
- ・国際観光流動の動向と観光交通計画（航空輸送やクルーズ船による周遊観光）
- ・鉄道需要のマーケティング戦略

- ・空港企業の経営戦略と事業戦略
- ・インターネットを活用した交通計画調査手法の確立
- ・大規模ニュータウンの交通システムの事後評価

●ゼミナール・テーマ（予定）

- ・運輸業界の動向をバーチャル株取引から学ぶ
- ・TOP [交通技術資格者]、SPI、TOEIC などの試験対策
- ・交通計画などに関する文献レビュー

●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として交通システム計画、交通需要予測を履修すること。



写真⑩



写真⑪



写真⑫



写真⑬

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

公共交通の経営は需要の伸び悩みや採算性の悪化などの問題に直面している場合があります。鉄道事業を例としてみれば、近年開業した都市郊外鉄道や地方鉄道は採算性の悪化により事業の継続が危ぶまれる企業もあります。少ない需要で採算性をあげようとすれば、収入源である運賃を高く設定せざるを得なく、これが需要顕在化を抑える結果となってしまっています。このような悪循環が進めば、地域の公共の足を失う危険性すら指摘されています。

当研究室ではこれらの問題を発生させないために、公共交通需要を喚起し、事業経営を健全化させることを念頭に置いた研究を進めています。

1. 鉄道開業遅延による効果損失の影響分析

当初の計画より開業が遅れ、建設が長引いたことにより建設費や事業管理費が膨らむ事例が多々あります。その結果、上述のように、事業費の増大が高い運賃設定を余儀なくしています。そこで本研究では、5年間の開業遅延が生じた東葉高速鉄道を事例として、遅延による効果損失の大きさを試算しています。その結果、開業遅延による効果発現の遅れにより約2,200億円、運賃高騰による利用者離れによって約500億円の国民経済的損失があることがわかりました。また財務分析の結果、開業遅延による事業費増大によって約1,600億円の財務的損失が生じ、採算性を大きく悪化させる要因であったことも明らかとなりました。これらの結果を踏まえ、開業遅延を起こさない方策および起きてしまった場合の対応策について検討しています。

2. 鉄道需要マーケティングのためのサービス認知度の実態調査

鉄道事業者は運行所要時間の短縮、多頻度運行、回数券などの運賃割引切符の発売など、さまざまなサービスの向上に努め、需要開拓を行っています。それらのサービス向上策は利用者に適切に認知され、利用されてはじめて効果となります。しかし、実際には、それらサービス向上策は広く認知されずにいると思われます。そこで本研究では、昨年度開業したつくばエクスプレスを対象に、サービスの認知度を調査分析しています。利用経験や利用頻度に応じて認知度が高まることは予想していたが、調査結果では、高頻度利用者でも運行頻度や割引券情報などを正確に把握していないことがわかりました。さらにサービス水準を低く認識する傾向が強いこともわかりました。これらのマイナスの先入観が、需要喚起の足かせになっている可能性があり、適切かつ効果的な情報発信による認知度向上方策についても検討しています。



写真⑭ 東葉高速鉄道北習志野駅改札



写真⑮ 2000型車両

交通計画第二 研究室

高田邦道 教授

小早川悟 専任講師



交通計画第二研究室では、従来から交通技術をベースにした交通計画の構築を目指して研究を進めています。具体的には、「地区交通計画」、「物流施設計画」、「都市交通計画」などの方法論を成果として挙げてきました。この中で解き切れていない問題として、「路上駐車」の路外への排除、「公共交通システム構築のためのアクセス支援」、「地区物流計画の構築」、「車抑制のための住民判断への情報提供方法論」等々が挙げられています。これらの問題を、『地球環境を考える交通技術』という視点から解いていこうと考えています。さらに、「安全」を目指した社会システムの必要性に鑑み、『交通事故半減プロジェクト』運動とその技術的サポートに取り組んでいます。

●卒業研究テーマ

- ・公共交通不便地域におけるタクシー交通の利用調査
- ・駐車場の整備方法とその可能性
- ・公共交通不便地域におけるパーク・アンド・ライドへの転換可能性に関する研究
- ・路上駐車を取り締まり方法

- ・近隣商業地に隣接する住宅住民の車抑制に関する意向調査
- ・交差点ハンプの交通現象解析と課題の実験
- ・地区住民の視点から見た歩道整備
- ・中核的病院への来院交通手段の実態
- ・ローカルルール運用としての路上駐車排除方法の検討ー東京都千代田区大手町・丸の内・有楽町地区を対象としてー
- ・新潟県中越地震後のトラック輸送について
- ・自転車用交通規制に関する認識実態の分析

●ゼミナール・テーマ

- ・高田邦道教授による講義「これからの交通工学」等
- ・「交通技術必携」の輪読および発表
- ・セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通総論、ソーシャルロジスティクス、交通現象解析Ⅰ、交通現象解析Ⅱを受講していること。

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

1. 東京都練馬区における福祉コミュニティバスの導入に関する研究

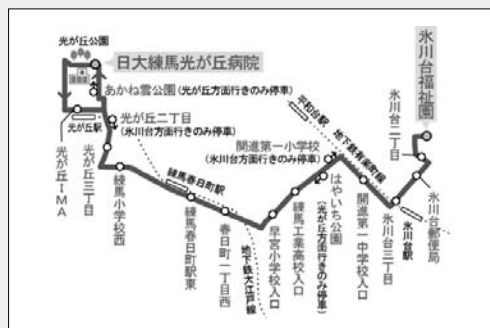
練馬区では高齢社会における区民の移動性の向上を目指し、コミュニティバスの導入を検討しています。しかし、コミュニティバスの多くは、導入後の利用率の低さや自治体の厳しい財政負担など多くの課題を抱えています。そこで、コミュニティバス運行による区の財政支出を最小にするため、福祉事業の一つである「福祉園」の送迎バス車両を有効活用し、福祉園送迎機能とコミュニティバス機能を融合させた「福祉コミュニティバス」の試行を平成17年6月から開始しました。福祉コミュニティバスの「福祉」には、①福祉園送迎バス車両（車椅子乗降装置付き車両）の活用、②公共交通利用による通院など高齢者の足の確保、という2つの意味があります。本研究室では、練馬区の福祉コミュニティバスの実験に関わっており、わが国におけるコミュニティバス事業の新たな運行方策に取り組んでいます。

2. 日本型パーク・アンド・ライドシステムの構築に関する研究

自動車は、現代社会において自由で便利な移動手段として定着し、経済成長の一役を担い生活を豊かにしました。しかしながら車社会は、都市部における交通渋滞や地球環境問題も引き起こしている現状にあり、車社会の変革が求められています。そこで、自動車利用を一部制限し、自動車と公共交通機関の共生システムを検討する必要があります。その一手法として、パーク・アンド・ライド（以下、P & R）システムが挙げられます。P & Rとは、自動車を都市郊外鉄道駅の駐車場に停め、鉄道に乗り換えて都心あるいは特定地域に入る方式で、欧米の各都市では積極的に活用されています。そこで、日本におけるP & Rシステムを構築することで、車社会を持続させることを考えています。これらの背景をもとに本研究室では、日本型P & Rシステムの構築に関する研究に取り組んでいます。



写真⑯ 福祉コミュニティバス



写真⑰ 福祉コミュニティバスの運行ルート

地盤工学 研究室

巻内勝彦 教授

峯岸邦夫 助手



平成17年度は、大学院修士2年生1名、卒研生12名、3年生9名でした。

修士論文、卒業研究は、交通施設に関連する地盤構造物建設の際に使用する新技術や新材料、交通荷重を受ける地盤挙動などを対象として扱ったテーマを中心に研究を行いました。また、建設発生土の有効利用を念頭に置いた技術やジオシンセティックスドレーン材を用いた地盤浄化技術についても研究を行っています。建設発生土に軽量化材料である発泡廃ガラスを混合した軽量化地盤材料のジオグリッド補強盛土工法への適用性の検討や、コンパクトな機械で軽量盛土を構築可能な現場発泡式硬質ウレタンの力学特性に関する研究も成果を上げつつあります。一昨年度より行っている、盛土中にジオシンセティックス製のドレーン材を敷設することによって土中の有害物質を雨水などと一緒に排出し地盤浄化を試みる研究については、まだ基礎的研究の段階ですが、このような技術は社会でのニーズが増えることが予想されます。

●卒業研究テーマ

- ・繰返し応力下の関東ロームの強度変化特性
- ・熱電対を利用した地盤内モニタリングの基礎的研究
- ・交通荷重を受ける軽量化地盤材料の力学的特性
- ・現場発泡式硬質ウレタンフォームの強度変形特性
- ・短繊維混合補強土の強度に及ぼす補強材形状および配置方法の影響
- ・ジオセル補強土の強度変形特性に及ぼす断面形状の影響
- ・舗装用強化ジオテキスタイルの耐久性評価
- ・ジオテキスタイルドレーン材を用いた地盤浄化

●ゼミナール・テーマ

- ①トランスポーターションジオテクノロジー（交通施設の地盤工学）とは？
- ②地震・大雨などによる地盤災害と地盤防災技術
- ③地盤構造物への新素材・新材料
- ④モール応力円
- ⑤性能設計法入門（これからの国際標準設計法）
- ⑥魅力あるアースデザイン
- ⑦地盤構造物を含む交通施設のバリアフリーに関する講話
- ⑧フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特に設けていない。

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

地盤工学研究室では、前述の研究室紹介でも触れましたが、地盤力学の基礎的な部分を扱ったテーマから新材料・新工法の実用化を目指した研究まで幅広く行っています。その中で代表的なものについて紹介したいと思います。

皆さんご存じの通り、わが国は国土が狭小で道路や鉄道などの交通施設建設に適している良好な地盤が少ないため、やむを得ず軟弱地盤や山間の急傾斜地などに交通施設などを建設せざるを得ない場合があります。従来、軟弱基礎地盤上にこのような地盤構造物を構築する際は、物理的または化学的に原地盤を改良する工法が一般的でした。しかし最近では、地盤構造物自体の自重を軽くしたり、ジオシンセティックスと呼ばれる石油化学製品のシートやグリッドを敷設して補強する工法が開発されています。

地盤構造物自体の自重を軽くする工法を軽量盛土工法と呼びます。現在、当研究室では軽量盛土工法に使用する軽量化地盤材料や天然の地盤材料の代わりに使用する超軽量人工地盤材料に関する研究を行っています。

主要テーマの一つは、重くて堅い地盤材料に軽くて柔らかい発泡スチロールのビーズを混入させた軽量化地盤材料についての研究です。性質が相反するもの（重くて堅い←→軽くて柔らかい）を混合するため、従来の地盤力学の範疇では説明し得ない問題があり、現在交通荷重下を想定した載荷試験を行い力学的特性の把握を行っています。なお、この軽量化地盤材料は現地発生土の有効利用にも役立つことから着目されつつあります。

また、超軽量人工地盤材料である現場発泡式硬質ウレタンの強度変形特性に関する研究も行っています。現場発泡式硬質ウレタンは、コンパクトな施工装置を現場に運び込み、地山に直接打設することができるので、狭隘な山間部における道路盛土建設（新設や改修工事）などの際、経済的に作業を行うことができます。平成17年度は、土圧軽減特性の把握に関する研究を行いました。写真-19は、非接触型のレーザー変位計を用いて側方ひずみを測定しているところです。

次に地盤を補強する工法（いわゆる補強土工法）の研究について紹介します。

元々、土は圧縮には強いのですが引張りに対しては強度が期待できません。そのような弱点を補うためにジオシンセティックスと呼ばれる補強材を地盤中に挿入したり敷設して地盤の補強をします。当研究室では、地盤材料に有限長のナイロン製の短繊維を混合した短繊維混合補強土について補強材の形状と配置方法によってせん断特性に及ぼす影響の把握を行っています。実験に使用した短繊維補強材には容易に入手することのできる市販の鳥よけ網（バードネット）を切断して用いました。研究の結果、補強材の形状、混入量、配置方法などに最適値が存在することがわかりました。

ジオシンセティックスの有する補強以外の基本機能に分離機能があります。たとえば、粒径の異なる地盤材料間の仕切りにジオテキスタイルと呼ばれるシートを敷設することにより、それぞれの材料が混ざり合うのを防ぐことができます。その機能を生かし、コンクリートブロック舗装下のクッション砂と路盤材の間にジオテキスタイルを敷設して砂の流亡を防ぎますが、交通荷重を受けた場合のジオテキスタイルの耐久性評価法が確立されていません。そこで、ジオテキスタイルの耐久性評価試験法規格の確立を目指した基礎実験も行っています。



写真18 平成17年度集合写真



写真19 側方ひずみ測定

道路交通 研究室

安井一彦 専任講師



3 年生は交通工学に関するゼミ、TOP（交通技術資格）に合格するためのゼミ、就職試験対策としての各種講座、4 年生は交通工学に関するゼミと卒業研究のミーティングを行っています。大学院生は、修士論文を進める一方、各学会での活動や民間・官公庁からの様々な共同研究等を行っています。交通信号制御に関して研究を行っている、わが国でも数少ない研究室です。

道路交通研究室では、道路上に起こりうるあらゆる現象について研究を行ってきました。しかし、まだ解明されない現象がたくさんあります。これから幅広い視野をもって、道路交通の効率・安全に向けて、研究に励んでいきます。研究室の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/ROADTRA/IE/itop.html>

●卒業研究テーマ

- ・踏切連動信号制御の導入効果に関する研究
- ・クリアランス制御に関する研究
- ・ジレンマ抑止制御の導入効果に関する研究
- ・押しボタン式信号の高度化に関する研究
- ・渋滞交差点における歩行者青時間適正化に関する研究
- ・高速道路における道路線形と実勢速度に関する研究

- ・スキッドマークを用いた交差点危険度評価手法に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・交通工学関連知識のマスター（TOP 資格の取得）
- ・プレゼンテーションツールの学習

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通流理論、交通制御の単位を取得、もしくは受講しており、交通問題に強い関心を持っている学生。



写真① 研究室HP



写真② 交通流解析

交通システム 研究室

福田 敦 教授

伊東英幸 助手



交通システム研究室では、様々な交通問題へシステム工学的アプローチによって取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価の問題に適用し、実際に問題解決に貢献することを目指しています。

最近では、地下鉄や Bus Rapid Transit などの導入が交通走行状態や温室効果ガスの排出に与える影響を分析するための利用者均衡配分法、ITS 技術を活用して交差点やバス・救急車の運行を高度に制御するシステムを評価するための交通流シミュレーションモデル、プローブカーを活用した交通情報システムなどの開発に取り組んでいます。また、交通安全を推進するためのヒヤリ地図の作成や二輪車用ドライビングシミュレータの開発についても取り組んでいます。

これらの開発したモデルやシステムの適用は、多くの場合、各国の大学の先生や学生あるいは政府関係機関などと共同研究という形で進めています。本年も、タイのチュラロンコン大学、コンケン大学、キンモンクット工科大学トンプリ校などの研究グループと共同で研究を進めています。卒研生や大学院生が実際にこれらの国へ行き、現地の

学生と協力して調査なども行っています。

●卒業研究テーマ

- ・バンコク地下鉄延伸による温室効果ガス削減量の推計
- ・バンコク都市圏への Bus Rapid Transit 導入の評価
- ・プローブカーシステムを活用したバンコク都市圏における交通状況の把握方法の開発
- ・プローブカーシステムを活用した道路路面性状調査システムの開発
- ・緊急車両優先信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・バス運行改善のための高度な信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・交通分野におけるクリーン開発メカニズム導入の可能性の検討
- ・那覇市におけるトランジットモール導入社会実験の評価

●ゼミナール・テーマ

小グループ毎に対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。成果については、レポートを作成し、講評会を行う。なお、平成18年度は、コンケン市（タイ）、マハサラカン市（タイ）、那覇市などを対象とする予定である。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決に関わる職業につくことを希望している者。数理統計学、オペレーションズリサーチ、交通システム計画、システム工学、交通需要予測を受講することを推奨する。

交通環境 研究室

藤井敬宏 教授



研究室では、道路や都市の各種空間を対象とした社会基盤整備の評価や交通環境の改善に向けた対策方法の研究を進めています。環境の視点では、社会基盤整備を行う際の環境の保全や創造を図る方法論や計画論を検討しています。また、交通の視点では、地域の交通改善計画や交通バリアフリー化に向けた対策・評価方法の検討を行っています。

平成17年度のゼミナールは、修士課程2年が2名、1年が5名、卒研生14名、3年ゼミ生10名の総勢31名が在籍し、毎週行っているゼミナールに加えて、研究室の卒業研究発表会を年3回、卒業研究の各種調査、北海道へのゼミ旅行、市原市バリアフリーワークショップ（中学生向けバリアフリーの体験講座）、狛江市のまちづくり会議などへの参加など、ゼミ活動を行いました。

●卒業研究テーマ（平成17年度）

- ① 下田市既成市街地の新みなと橋建設による影響に関する研究
- ② 3次元画像解析ソフトの歩行空間評価への適用に関する研究
- ③ 市原市における交通バリアフリーの市民活動に関する研究
- ④ 船橋市における防災対策としての福祉避難所の活用に関する研究

- ⑤ 地方都市における公共交通の整備方策に関する研究—富士市を例として—
- ⑥ 環境施設帯の沿道環境評価に関する研究—共分散構造分析の適用—
- ⑦ NO_x・PM 法およびディーゼル車走行規制による効果と影響に関する研究 など

●ゼミナール・テーマ（平成17年度）

- ① グループディスカッション
 - ・ビデオ・ニュースを題材とした環境・都市・交通問題についての討論
 - 地域づくり、まちづくり、世界の人口増加と環境対策、世界の港、他
 - ・審査会（テーマ：少子化問題とは、技術者としての倫理観）
- ② 狛江市市民会議への参加
 - ・狛江市周辺地域の交通実態を調査し、市民会議の場で学生発表
- ③ 現代用語検定の時事学習問題の実施（3回程度）



写真② 狛江市市民まちづくり会議での学生発表



写真③ 緑に囲まれた環境施設帯の整備

737 号室

構造工学第二 研究室

柳沼善明 教授

齊藤準平 助手



平成17年度の当研究室のゼミ活動では、現場見学や「君は卵を守るか」コンテストなどを実施しました。9月には西関東道路のPC橋建設現場見学（山梨市および石和温泉）を、12月には「君は卵を守るか」コンテスト2005を行いました。初めて建設現場見学を経験したゼミナール生は、橋梁の製作状況を見て、製作している橋梁の規模が思ったよりも大きかったこと、緻密に計算されて工事が行われていること、工程管理、施工管理、品質管理など、学校では学べない数多くの貴重な体験をしたようです。

卒業研究では新材料による多機能コンクリートの開発や、橋梁構造形式の一つである外ケーブル工法によるプレストレストコンクリート橋梁の破壊実験と解析から破壊に対する安全性ならびに設計方法を検討しています。解析ではパソコンによる非線形有限要素解析を行い、コンクリートのひび割れや構造物の破壊までの挙動解析を行っています。

今年度は、昨年度の卒研テーマ以外にも環境に配慮したコンクリートの研究、劣化・損傷したコンクリート構造物の耐久性診断、火災を受けたコンクリート構造物の安全性など、様々な研究を予定しております。

●卒業研究テーマ

- ・新材料を用いた多機能コンクリートの開発
- ・外ケーブル方式PC橋梁の破壊に対する安全性
- ・劣化・損傷した鉄筋コンクリート構造物の損傷度診断技術
- ・交通施設構造物に及ぼす火災の影響

●ゼミナール・テーマ

コンクリートに関する随筆やパンフレットを読み新形式橋梁の建設記録のビデオを観て、コンクリート全般についての知識を豊かにします。さらに、新しい構造形式の橋梁について、構造上の特徴や景観などについて学びます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



写真④ 平成17年度のPC橋建設現場見学の集合写真

構造工学第一 研究室

星埜正明 教授



人員構成については、担当教員は星埜です。大学院生は、M2が1名、M1が0名です。平成17年度研究室在籍の大学院生は、M2が1名、M1が1名です。卒研生は3名です。研究対象は構造工学で、主として鋼構造ですが、鋼・コンクリート合成構造、コンクリート構造も扱っています。学部の科目で言えば、構造力学、鋼構造等が密接な関連を有しています。

●卒業研究テーマ

- ・鉄道軌道に関する研究
- ・ゴムラテックス混入コンクリート複合構造
- ・合成構造橋梁

●ゼミナール・テーマ

ゼミでは、前期には構造力学を中心とした勉強を行います。後期は習志野祭を挟んで前半と後半に分かれ、前半では習志野祭へ向けて展示構造物の製作を行います。最近では吊橋や斜張橋が多く、来訪した子供達に遊んでもらっています。後半には英語を中心とした勉強を行います。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特に条件は付けていません。



写真② 吊橋（習志野際）



写真③ ゼミナール研修にて明石海峡大橋を見学

都市環境計画 研究室

伊東 孝 教授



都市環境計画研究室では、都市計画（まちづくり）、景観工学（けしき）、歴史的遺産（将来への贈りもの）を三本柱にしながら、歴史的まちづくりの実践、産業・土木遺産のデザイン分析と提案などに取り組んでいます。最近ではこれに、都市のミュージアム論を加えました。

◎まちづくり

21世紀は、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に代わって、まちのストック—歴史的な蓄積—を活かしたまちづくり（歴史的遺産を活かしたまちづくり、都市のミュージアム論）が求められています。

これらの実践の一環として、過去8年間、鞆の浦（広島県福山市）での住民参加型調査（ワークショップ）、また一昨年から「勝鬨橋をあげる」ことにも取り組んでいます。

◎環境・景観・美

都市空間の快適性や美の追求、あるいは歴史的に育まれてきた環境のもつ美しさや優しさなど、様々な景観・デザインをみつめ、また考察を加えていきます。

◎歴史的遺産

先人の築いてきた優れた産業・土木遺産を見ることが、知られざる産業・土木遺産の発見と評価方法のあり方を検

討しています。自治体などの調査はもとより、国の史跡や重要文化財の調査、海外調査も行っています。昨年度はベトナムに現存するエッフェルの橋を発見しました。

●卒業研究テーマ

- ・鞆の浦のまちづくり調査
- ・職人技術とオーラル・ヒストリー
- ・都市防災計画
- ・地域活性化施策に対する考察
- ・勝鬨橋をあげることの調査と運動のバックアップ
- ・都市近郊鉄道（軍用・工業用などの専用線を含む）
- ・近代ダムと発電所の文化財評価のあり方
- ・都市のミュージアム論
- ・中国・東南アジアの文化財保護と利活用 など

●ゼミナール・テーマ

- ・文献調査と現地調査の訓練と実際
- ・問題解決学の演習と学会などでの発表

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究を景観分野で行う学生は、「景観設計」を受講しない受講予定であること。



写真④ 鞆ライトフェスタ

環境工学 研究室

岩井茂雄 教授

吉永聖仁 副手



本研究室では、学生各自が「環境」に基づいたテーマを選定し、研究を行っております。現在までに取り上げたテーマは自動車騒音の低減対策や心理評価、廃棄物の処理と有効利用、安定処理土の中性化防止と未処理土壌への環境負荷低減、浮遊汚濁物質の除去技術の開発、都市の水循環と熱環境などがあります。現時点では都市内のアメニティの確保のため、透水性舗装の適用やアクティブノイズコントロールによりタイヤ／路面騒音を低減させる研究を行っております。一方、内陸湖沼の汚染源の一つである農業からの排水を浄化する技術開発や地表面での熱収支と水循環に関する研究や、汚染された土壌から汚染物質を除去し浄化する研究も進めています。

また、各地で実施されている環境展などにも積極的に参加しています。

●研究テーマ

- ・タイヤ／路面騒音の低減に関する研究
- ・透水性舗装に関する研究
- ・路面特性と舗装マネジメントに関する研究
- ・土壌中のイオンの移動制御に関する研究
- ・路上雨水に関する研究

●ゼミナールテーマ

- ・水質と試験法について
- ・底質調査法について
- ・大気質の調査方法について
- ・交通騒音・振動と試験法について
- ・熱環境について

●卒業研究・ゼミナール着手条件

特になし。環境問題に興味を持った者であれば誰でも受け付けます。



写真② 「船橋環境フェア」にて



写真③ ゼミ研修旅行（韓国、清溪川視察）



基礎力学 研究室

下辺 悟 助教授



本研究室では、主に ADR 土壌水分計などの各種最新センサーを用いて地盤防災（斜面崩壊、堤防の漏水検知など）の簡便・迅速なリアルタイム・モニタリング検知技術を探求しています。また、多孔質天然素材の諸特性を利用した、土木・環境分野への有効活用（水質・排出ガス浄化など）も環境地盤工学の視点からチャレンジしているところです。

- ・研究室の場所 7 号館 1 階7110室
- ・研究室の構成員 下辺悟助教授、大学院生 2 名・卒研生 9 名（平成17年度実績）

●主な研究テーマ

- ◎ ADR 土壌水分計の実用性と地盤防災の検知技術への応用
- ◎ 多孔質天然素材の材料特性と土木・環境分野への有効活用
- ◎ 土の実用的分類の構築とその工学的利用
- ◎ 屋上緑化とそのモニタリング手法
- ◎ 地盤環境モニタリング

●ゼミナール・テーマ

- ・多孔質天然素材「珪藻土、備長炭、竹炭、麦飯石およびピーナッツの殻」を科学する

- ・怖い「地盤災害」とその防災対策
- ・各種土の基礎実験、建設現場・研究所見学

●卒業研究・ゼミナール着手条件

主な研究テーマが地盤材料の基礎・基本ならびに地盤防災・環境地盤工学への応用に関するもので、興味のある方ならどなたでも大歓迎です。



写真④ 土層への水の浸潤モニタリング



写真⑤ 降雨による斜面崩壊実験

水環境システム 研究室

吉川勝秀 教授



河川や湖沼、海などの水・物質循環や生態系、広域生態複合（ランドスケープ）に関すること、そして川からの都市再生、自然と共生する都市・流域圏・国土のマネジメントなどについて実践的な研究を進める。

第3期の科学技術五ヵ年計画での重点テーマとなっている「水・物質循環と流域圏」研究に関わるテーマの研究も予定している。また、千葉県にある大学として、千葉の河川や湖沼（印旛沼など）とその流域、東京湾とその湾岸都市に関するテーマの研究も着実に進める。

●卒業研究テーマ

- ・川からの都市再生、川のユニバーサルデザイン、川での福祉・医療・教育など
- ・水害などでの災害弱者対策、総合的な治水対策（国内外）など
- ・自然と共生する流域圏・都市再生シナリオ、持続可能な水資源政策シナリオ（国内外）など
- ・多自然型川づくりを超えて、エコロジカルネットワークなど
- ・都市における道路と川のあり方や改善・再生（国内外）
- ・沿岸域を含む流域圏での水・物質循環と生態系の解析
- ・河川舟運
- ・河川の堤防などの力学設計、システムとしての堤防論など

・エコサニテーション（国内外）

なお、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある。

●ゼミナール・テーマ

卒業研究と同様のテーマを設定し、調査・検討・研究することを想定している。

卒業研究と同様に、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究の学生については、卒業研究のみならず、大学院まで研究・学習を継続する意欲のある学生を優先したい。意欲的で、継続して着実に研究を遂行できることを条件として指導したい。研究成果は対外的に発表する。

ゼミナールについても、意欲的で、継続して着実に取り組むことを条件に指導したい。ゼミナールで取り組んだ成果は対外的に発表することを目指す。



写真㉔



写真㉓



写真㉒



写真㉑

デザイン 研究室

伊澤 岬 教授

江守 央 助手



恒例となった「卒業・修士設計展」は昨年第3回を迎え、「景観デザイン教育」をメインテーマに開催しました。これは景観法制定にともなって景観・デザイン教育の重要性を強く感じたからです。展示では学科の10年にわたるデザイン教育の方法、さらには成果を展示し、他大学からの見学者を含め大いに注目を集めました。まったく同様な視点から、土木学会の景観・デザイン委員会において「景観・デザイン研究会」を立ち上げ、第1回の研究発表討論会が本学駿河台キャンパスで開催されました。他大学との合同企画展「大学作品展」に学科展示会の内容をそのまま出展しました。

本年は「福祉・景観展」として、観光ユニバーサルデザインの視点から、京都の世界遺産の全社寺境内のバリアフリー対応を考えるにあたり、1/2000の地形模型を中心に、景観の魅力をまず地形に探ろうということで企画しております。

●卒業研究テーマ

設計テーマ：1. 都市再生・自然再生

2. ユニバーサルデザイン（都市、交通、建築）

3. 交通空間のデザイン

論文テーマ：1. 交通空間のユニバーサルデザイン

2. 環境の空間評価について—丘陵地、海洋空間の地形—

3. 観光ユニバーサルデザイン

①坂のまちにおける観光UD ②世界遺産の観光UD

4. 都市と防災

①東京湾の防災対応 ②自然災害と世界遺産

5. 交通バリアフリーと市民参加のまちづくりの関連についての研究

6. 障がい者に配慮した都市模型の作製に関する研究

7. 地域福祉輸送の提案に関する研究

●ゼミナール・テーマ

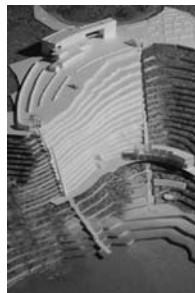
・各種デザインコンペへの参加

・都市・交通空間ウォッチング

・ワークショップの企画・運営

●卒業研究、ゼミナール着手条件

条件：景観設計・構造デザイン受講者、および受講予定者



写真㉞ TSUNAMI MEMORIAL DESIGN COMPETITION (タイ) 応募案模型写真。津波を「階段」で、タイの風土を「棚田」で表現



写真㉟ 2005年12月10、11日に駿河台キャンパスで行われた土木学会「第1回 景観デザイン研究発表会」での大学作品展における「社会交通工学科」ブース

平成17年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

道路整備事業への代償ミチゲーション制度の導入の可能性
主査：高田邦道教授 副査：福田敦教授、島崎敏一教授、横内憲久教授 伊東英幸

修士論文

エキナカ空間におけるイメージ評価に関する基礎的研究
指導：天野光一 教授 内山一郎

都道府県景観計画の構成に関する研究
指導：天野光一 教授 加納万祐子

中国東北地方の近代土木遺産の利活用に関する研究
—吉林省長春市に焦点をあてて—
指導：伊東 孝 教授 金 哲錫

鉄道聯隊演習線に関する研究
—鉄道建設関連部隊に着目して—
指導：伊東 孝 教授 鶴岡智史

土木技術者八十島義之助研究：少年期～壮年期
—CST MUSEUM『八十島由之助文庫』史料の分析を通して—
指導：伊東 孝 教授 西塚泰道

ADR 土壌水分計の実用性とそのモニタリング手法への応用に関する研究
指導：下辺 悟 助教授 大南信人

地区特性に応じた附置義務駐車制度に関する研究
—東京都千代田区大手町・丸の内・有楽町地区を事例として—
指導：高田邦道 教授 古賀浩樹

住宅地における住民参加型交通安全対策に関する研究
—千葉県鎌ヶ谷市東初富地区を事例として—
指導：高田邦道 教授 鈴木正徳

歩行者優先信号制御の効果に関する研究
指導：高田邦道 教授 安井一彦 専任講師 林 一郎

クリアランス時間の適正化に伴う車両挙動の変化に関する研究
指導：高田邦道 教授 安井一彦 専任講師 小貝真史

路面の点検方法としてのプローブカーの活用可能性に関する実証的研究
—開発途上国への導入を目指して—
指導：福田 敦 教授 岡部博志

複数種の SI モデルを用いた新たな環境評価手法に関する提案
指導：福田 敦 教授 藤原真也

交通計画における交通調査の利用方法に関する研究
指導：藤井敬宏 助教授 金子広資

コミュニティバスの路線計画に関する研究
—武蔵村山市 MM シャトルを例として—
指導：藤井敬宏 助教授 渡邊哲也

ゴムラテックスモルタルを合成した鋼床版に関する基礎的研究
指導：星埜正明 教授 永生洋樹

地盤排水機能における浄化性能に関する研究
指導：巻内勝彦 教授 今野雄太

外ケーブル方式 T 形 PRC はりのせん断挙動
指導：柳沼善明 教授 井口 淳

卒業研究

■ 交通景観研究室（天野光一 教授）……………

西欧風景画に見る河川景観の特徴 青木一史

商業都市における都市空間の形成と交通発展についての基礎的研究
—野田市のキッコーマン(株)を事例に— 上田 透

歌謡曲の歌詞情景描写からみる川のイメージに関する研究
小河和貴

小学校校歌にみる千葉県のイメージに関する研究 加藤真史

仏領サイゴンにおける都市発展と交通の変遷の関係に関する基礎的研究
小鍛治恵

観光案内本からみる近代箱根の変遷 藤野公尋

のり面工法における景観・環境の取り扱いに関する研究
佐々木雄任

駅空間における利用者の行動特性に関する研究 松村雄喜

【 】は共同論文指導

歌謡曲の歌詞情景描写からみる橋のイメージに関する研究
松澤宏治

鎌倉三十三ヶ所巡り寺院参道にみるシークエンス景観の研究
松下卓生

鎌倉を舞台とする小説に見る都市景観のイメージ研究
—立原正秋全集をケーススタディーとして— 吉富健介

■ デザイン研究室（伊澤 岬 教授）……………

コンパクトシティ秋田の街路設計
—雪国における可動式アーケードの提案— 大江 翔

バンコク、トンプリー環境対応型都市構想
—「水の道」の再構築による水都再生— 大島淳之

東京湾防災都市壁構想 則本弘明

船橋鉄道高架下再生構想 広瀬大高

交通バリアフリー基本構想における市民参加型まちづくりの活動パターンの抽出 田中圭二郎

地域の福祉移送の提案
—ケーススタディ：八千代市の場合— 藤内和樹

視覚障がい者対応の施設模型に関する基礎的研究 渡邊博則

■ 都市環境計画研究室（伊東 孝 教授）……………

福山市鞆の浦の石造構造物分析
—沼名前神社を事例に— 齊藤 聡

震災に備えた小規模公園の新たな利活用について
—東京都台東区を事例に— 石井克英

「ご当地検定」に関する一考察 小林弘典

山形県「酒田・飽海地区」における左官の変遷調査
—左官職人オーラル・ヒストリー— 後藤主良

■ 環境工学研究室（岩井茂雄 教授）……………

タイヤ近傍音に対するタイヤと路面の相対スティフネスの影響 西川則行

レーザ変位計による舗装路面のラフネス評価 重枝久次

二層透水性アスファルト混合物の吸音特性
為井信行、豊田彰敏

路上雨水の汚染実態と浄化に関する基礎研究
清水一代、虎山宗哲

導電膜による水中に分散した粘土粒子の捕集に関する基礎研究
栗林 寛

ダイオキシン類汚染土壌化技術の現状と新技術開発の可能性について 石塚一彰

■ 基礎力学研究室（下辺 悟 助教授）……………

拡張フォールコーン法に基づく土の状態量の評価とその工学的応用 竹中 聡、安達哲也

ADR 法を用いた土の含水量プロファイリングに関する研究
遠藤徳和、屋宮一公

多孔質天然素材の水質浄化機能について 坂野春樹、関本崇行

植栽基盤用土の物理化学的性質、保水性および透水性について
磯野裕一、桑野智史

土の含水比測定の新しい簡便・迅速法 中村恵介【岩井茂雄】

■ 交通計画第二研究室（高田邦道 教授）……………

公共交通不便地域におけるタクシー交通の利用調査
岩崎孝浩、関田泰裕

駐車場の整備方法とその可能性 貝塚朋也

公共交通不便地域におけるパークアンドライドへの転換可能性に関する研究 佐藤美紗

路上駐車を取り締まり方法 瀬川佳之

近隣商業地に隣接する住宅住民の車抑制に関する意向調査
藤田昂平

交差点ハンプの交通現象解析と課題の実験 宮代泰貴

地区住民の視点から見た歩道整備 茂木貴之

中核的病院への来院交通手段の実態 山本浩之

ローカルルールの運用としての路上駐車の実除方法の検討
—東京都千代田区大手町・丸の内・有楽町地区を対象として—
吉本ゆかり

新潟県中越地震後のトラック輸送について 渡邊 信

自転車用交通規制に関する認識実態の分析
有馬光宏【木戸伴雄】

■ 運輸交通計画研究室（轟 朝幸 助教授）……………

わが国の国際拠点空港競合の実態分析 荒谷太郎

鉄道新線サービスの認知度に関する実態調査 堀井敬介

駅空間再整備による居住地選択における駅選択要因の影響分析
阿部光治

大型客船入港時のみならず整備のあり方について 宇田川緑

交通調査における Web アンケートの導入可能性 大塚 巧

震災時における帰宅困難者のバス輸送計画に関する一考察
尾曲菜未

千葉ニュータウンの交通計画の事後評価
— 100m 道路の都市空間的評価— 楠元敦仁

公共交通情報提供システムの検索ログデータを利用したバス路線計画方法 鈴木孝幸

国際空港の非航空系収入構造の比較分析 野口 朗

災害時の救援物資配送の課題と対応 原口 晃

バスにおける商店街情報提供の可能性 樋口貴史

自転車防犯登録の活用による放置自転車対策の可能性について
細谷渉太

列車・車両の混雑情報提供による乗車変更行動要因の分析
松田博和

駅プラットフォームにおける混雑率指標の提案に関する研究
白井太郎

■ 情報工学研究室（中山晴幸 専任講師）……………

一般道における長時間運転とドライバーの運転疲労との関係
川口良典、小澤卓也

鉄道駅におけるバス案内情報提供方法に関する現状調査
古谷綱章

地下鉄駅構内の乗客流動挙動調査 佐藤大輔

道路状況とドライバーの視点動向について 水村勝茂

新幹線整備と午前 10 時到達圏の拡大について 三井 崇

■ 交通システム研究室（福田 敦 教授）……………

ミクロ交通シミュレーションによる救急搬送支援システム（M-MOCS）の導入効果の推計 白井良太

タイ・ウドンタニ市におけるヒヤリ地図作成の可能性
岡村 誠

統計資料からの CO₂ 排出量推計方法の比較 北村瑞穂

推計された交通状態からの CO₂ 排出量推計方法の比較
倉八 淳

車載型路上駐車車両観測システムの構築
—長時間かつ多頻度の調査への適用— 佐藤洋平

開発途上国における二輪車事故削減方策に関する基礎的研究
標 英俊

東葉高速鉄道開業に伴う沿線路線の輸送人員の変化およびその要因
野上慎二【金子雄一郎】

ニホンアカガエルのSIモデル構築に関する研究 森谷義孝

住民へのプロジェクト説明のための動画CG活用可能性の基礎的研究
一国際通りを例として— 山本理博

バス乗降感応信号制御導入と駅前施設整備による路線バス運行の信頼性に関する研究
矢吹祐輔

■ 交通環境研究室（藤井敬宏 助教授）……………

道路交通センサスを用いた交通調査の変遷に関する研究
出口 学

下田市既成市街地の新みなと橋建設による影響に関する研究
青木太一、赤木慎一郎

3次元画像解析ソフトの歩行空間評価への適用に関する研究
金木卓也、玉置亜紗子

市原市における交通バリアフリーの市民活動に関する研究
山岸靖典

船橋市における防災対策としての福祉避難所の活用に関する研究
小松弘記

地方都市における公共交通の整備方策に関する研究
一富士市を例として— 樋口恵一

環境施設帯の沿道環境評価に関する研究
一分散構造分析の適用— 一色麻世、矢口剛広

エコロジカルネットワークを考慮した緑地空間評価に関する研究
大秋善幸、志村光三郎

NOx・PM法およびディーゼル車走行規制による効果と影響に関する研究
碓井直人、佐藤 壮

■ 構造工学第一研究室（星埜正明 教授）……………

ゴムラテックスモルタル合成鋼板に関する基礎的研究
伊東真沙美、曹 騫

ポストテンション式まくらぎ定着部における応力状態と補強鉄筋
國安良典

■ 地盤工学研究室（巻内勝彦 教授）……………

繰返し応力下における高含水比火山灰質粘性土の変形特性
牛谷内五宏

土の熱伝導特性に及ぼす試料条件の影響 藤田真吾

発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の強度変形特性 平井 賢

軽量地盤材料現場発泡硬質ウレタンフォームの応力ひずみ特性に及ぼす試料状態の影響 國枝佳那子、佐藤 淳

発泡廃ガラスを混入した火山灰質粘性土の締固め特性
鶴山雄一

枝付きショートファイバー混合補強土の力学特性に及ぼす補強材形状および混入量の影響 本橋ゆかり

断面形状変化によるジオシンセティックスセルの補強効果に及ぼすセル形状の影響 伊代田祥仁、岡安真一

ブロック舗装クッション層下のジオシンセティックスの性能評価
木下靖文、堤誉志信

地盤内水平敷設ジオドレーン材の地盤浄化性能 安部智幸

■ 構造工学第二研究室（柳沼善明 教授）……………

模型RC床版の曲げとねじりに関する非線形有限要素解析
山本栄悟

人工ゼオライトを用いたポーラスコンクリートに関する基礎研究
立野忠利

■ 道路交通研究室（安井一彦 専任講師）……………

ジレンマ抑止制御の導入効果に関する研究 南向謙治

信号切り替わり時の最適クリアランス時間に関する研究
岡西裕之、片岡朋之

踏切連動信号制御の導入効果に関する研究
松岡正美、松田聡元

渋滞交差点における歩行者青時間適正化に関する研究
五十嵐健介【森田緯之】

スキッドマークによる交差点危険度評価手法に関する研究
佐藤 聖

新潟県中越地震後の通信網に関する研究 宮澤俊一

首都高速道路における道路線形と実勢速度に関する研究
吉田詩織【森田緯之】

首都高速道路本線料金所における処理時間に関する研究
名取勇太【森田緯之】

■ 水環境システム研究室（吉川勝秀 教授）……………

災害後関連死における防災計画に関する研究 阿部育佳

河川と湾域のつながりにおける親水性の連続に関する研究
一千葉県の河川を対象とした現状分析と対策— 石川未来

海岸線の人・海のふれあい形成に関する研究
一千葉県・東京湾岸の現状の分析とアクセスの改善— 佐藤牧子

水辺にふれあうための地域活動の実態調査 植松良太

印旛沼親水空間の活性化
一アクセスについての研究— 大関祐次郎

水辺からの都市再生に関する一考察
一都市河川における水辺空間での移動に着目して— 富田顕嗣

中小河川のユニバーサルデザインに対する研究
一飯田橋の親水遊歩道の提案— 林麻衣子

研究業績

掲載誌・出版元

題目・作品名・書名

教員名など

発表年月

交通景観研究室 (天野光一 教授・岸上明子 助手)

■ 査読論文

The 6th Eastern Asia Society for Transportation Studies (EASTS) Conference, Bangkok, Thailand, September 2005 Journal pp. 4300-4316

The Leading Factors for the Urban Development in the Asian Context — case studies of Makati, Cebu, Taipei, and Bangkok —

Akiko Kishiue,
Primitivo C. Cal,
Koichi Amano,
Hussein S. Lidasan

05年 9月

■ 口頭発表

第26回日本道路会議

景観に配慮したアルミニウム合金製橋梁用防護柵 (優秀論文賞)

伊藤 登 天野光一
弘永真人

05年 10月

土木学会第1回景観・デザイン研究発表会
CD-ROM

鋼製車両用橋梁用防護柵のデザインと開発

伊藤 登 天野光一
横山公一 山口 智
柴田康博

05年 12月

土木学会第1回景観・デザイン研究発表会
CD-ROM

アルミニウム合金製橋梁用防護柵のデザインと開発

伊藤 登 天野光一
三上 聡

05年 12月

デザイン研究室 (伊澤 岬 教授・江守 央 助手)

■ 査読論文

日本福祉のまちづくり学会「福祉のまちづくり研究」Vol. 8, No. 1

交通バリアフリー法基本構想策定後の継続的な市民参加のまちづくりに関する考察

江守 央 伊澤 岬
横山 哲 駒林秀明

05年 11月
採用決定

■ 口頭発表

土木計画学研究・講演集 Vol. 31

交通バリアフリー法基本構想の分類とまちづくりの展開について

江守 央 伊澤 岬
横山 哲 駒林秀明

05年 6月

第8回日本福祉のまちづくり学会全国大会

大学における福祉のまちづくり教育の実践
—景観・デザイン教育の有効性について—

江守 央 伊澤 岬
横山 哲 田中圭二郎

05年 8月

第8回日本福祉のまちづくり学会全国大会

観光ユニバーサルデザインと世界遺産
—地形に読む都市と境内—

伊澤 岬 江守 央
則本弘明

05年 8月

第1回景観・デザイン研究発表会

日本大学社会交通工学科におけるデザイン製図教育のデジタル
教材開発について

江守 央 伊澤 岬
川口利之

05年 12月

第1回景観・デザイン研究発表会

日本大学社会交通工学科における卒業設計・修士設計の試み

伊澤 岬 江守 央

05年 12月

■ その他

地域新聞 UKIUKI

八千代バリアフリーフォーラムの活動に迫る
—心のバリアフリーをめざして—

伊澤 岬 江守 央

05年 2月

読賣新聞

卒業・修士設計展 + 景観・デザイン教育展

伊澤 岬 江守 央

05年 5月

桜門春秋 2005・春季号

海の災害と世界遺産
—厳島・ヴェネツィアに学ぶ技術とデザイン—講演趣旨

伊澤 岬

05年 4月

NTT 出版

及川陽著「新しい旅の楽しみ方」装丁デザイン

伊澤 岬

05年 8月

TSUNAMI MEMORIAL DESIGN
COMPETITION (タイ)

作品出品

伊澤 岬 斎藤公男
江守 央 駒林秀明
小津野勝也
塩田直彦 下田明広
大島淳之 土川泰明
則本弘明 広瀬大高
他

05年 11月

第3回卒業・修士設計展

景観デザイン教育展報告書

伊澤 岬 江守 央
デザイン研究室

05年 12月

都市環境計画研究室 (伊東 孝 教授・野水雅之 副手)

■ 著書

東京大学出版会

シリーズ都市・建築・歴史 7 近代とは何か

伊東 孝 他

05年 7月

(財)リバーフロント整備センター

荒川下流誌

伊東 孝 他

05年 2月

■ 査読論文

土木史研究論文集 Vol. 24, pp. 17-24

神奈川県下における近世東海道の橋梁について

伊東 孝 斉藤 司
伊東孝祐

05年 5月

土木史研究論文集 Vol. 24, pp. 41-51

東京・三多摩地域における木・石・れんが橋の発展に関する研究

紅林章央 前田研一
伊東 孝

05年 5月

土木史研究論文集 Vol. 24, pp. 75-94

わが国における第二次世界大戦以前のコンクリートアーチ道路
橋の変遷

紅林章央 前田研一
伊東 孝

05年 5月

■ 口頭発表

土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 9-18	明治期東京の橋梁技術創成期と技術者群像 —倉田良嗣と金井彦三郎に焦点をあてて	伊東 孝	05年 5月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 37-48	東京奥多摩・青梅街道の橋梁計画—鋼とコンクリートの時代	紅林章央 前田研一 伊東 孝	05年 5月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 149-155	千葉県における我が国唯一の鉄道聯隊演習線 —鉄道建設部隊と松戸線に着目して—	鶴岡智史 伊東 孝	05年 5月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 211-222	“遺跡”の観点からみた近代土木遺産の評価視点に関する一考察 —近代発電ダムの「地域への影響」に着目して—	堀川洋子 伊東 孝	05年 5月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 515-519	八十島義之助文庫の概要	五海老正和 伊東 孝	05年 5月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 498-499	旧土幌線橋梁群の保全と利活用に対するNPOの役割	神部晴美 伊東 孝	05年 11月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 518-519	山形県「酒田・飽海地区」における左官技術の変遷調査 —左官職人オーラル・ヒストリー—	後藤主良 堀川洋子 野水雅之 伊東 孝	05年 11月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 524-525	中国広西チワン族自治区三江トン族自治県の風雨橋調査	吉田全克 野水雅之 伊東 孝	05年 11月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 526-527	空き家の福祉施設としての利用 —介護から自立へ、軀の浦・さくらホームを事例として—	丸山宗徳 野水雅之 伊東 孝	05年 11月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 530-531	「勝関橋が再び開くこと」の価値についての経済的評価（最終 調査版）	片桐隆晴 伊東 孝	05年 11月
土木計画学研究・講演集 Vol. 32, CD-172	第一次発電水力調査に関する一考察 —近代最大級のコンクリートダム：塚原ダムと三浦ダムを事例 として—	堀川洋子 伊東 孝	05年 12月

■ その他

CE建設業界 Vol. 54-1, pp. 8-10	日本橋 コンクリートと煉瓦・石との複合橋梁	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 1月
讀賣新聞	金曜コラム 勝関橋上がれ	伊東 孝	05年 1月
川崎市企業市民交流事業推進委員会	かわさきの宝物フォーラム PART 3 報告書	伊東 孝 他	05年 2月
CE建設業界 Vol. 54-2, pp. 8-10	柳原水閘 百寿の祝い	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 2月
熊本県上益城地域振興局	全国石橋サミット in 上益城報告書	伊東 孝 他	05年 3月
科学研究費補助金研究成果報告書 pp. 21-24	歴史的都市・村落の環境保全に関する調査研究	中村賢二郎 (研究代表者) 伊東 孝 他	05年 3月
CE建設業界 Vol. 54-3, pp. 8-10	友ヶ島砲台 明治砲台の代表格	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 3月
熊本日日新聞	石橋 魅力を再発見	伊東 孝	05年 3月
CE建設業界 Vol. 54-4, pp. 8-10	幻の二代目横浜駅と双頭レール	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 4月
石材 Vol. 295, pp. 2-10	熊本のめがね橋と石工のルーツを探る	伊東 孝	05年 4月
日本のダム再開発 p. 41	土木遺産の保存と利活用：現状と課題	伊東 孝 (寄稿)	05年 4月
日本経済新聞	産業遺産に人間の歩み	伊東 孝	05年 4月
日本経済新聞社	NIKKEI 産業遺産プロジェクト報告書	伊東 孝 他	05年 5月
社会交通工学科伊東研究室	BRIDGES IN VIETNAM	伊東 孝 大山亜紀子 西山芳一 (写真)	05年 5月
CE建設業界 Vol. 54-5, pp. 8-10	近代水道事業を彩る三人の先駆者（その一）	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 5月
CE建設業界 Vol. 54-6, pp. 8-10	近代水道事業を彩る三人の先駆者（その二）	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 6月
建設業しんこう No. 354, p. 31	エッセイ輪・和・話 開かずの橋の袂で	伊東 孝	05年 6月
神戸新聞	平木橋「現地保存を」	伊東 孝	05年 6月
日刊建設工業新聞	だれのための文化遺産か	伊東 孝	05年 6月
ponte No. 23, pp. 2-3	橋のある「まち」20 明治の隅田川五大橋梁	伊東 孝	05年 春夏
CE建設業界 Vol. 54-7, pp. 8-10	近代水道事業を彩る三人の先駆者（その三）	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 7月
TOKEN2005 No. 7, pp. 14-15	第2支部で「伊東孝先生と巡る神田川」を開催	伊東 孝	05年 7月
讀賣新聞	勝関橋 ここから開け美しい街並み	伊東 孝	05年 7月
交通新聞	国際的な情報ネットを産業観光国際フォーラム	伊東 孝	05年 7月
CE建設業界 Vol. 54-8, pp. 8-10	兵庫県淡山疏水事業のシンボル 平木橋と水路施設	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 8月
中国新聞	港町の繁栄解明に挑む 日大生、軀の神社調査	伊東 孝	05年 8月
CE建設業界 Vol. 54-9, pp. 8-10	浦賀ドック ミュージアム・パークの核施設	伊東 孝 西山芳一 (写真)	05年 9月

理工研 News No. 47, p. 5	研究紹介 まちのストックー歴史的な蓄積ーを活かしたまちづくり	伊東 孝	05年 9月
朝日新聞	「軀の価値知ろう」専門家が意見を交換	伊東 孝	05年 9月
中国新聞	軀の歴史的価値を訴え 架橋計画再検討を提言	伊東 孝	05年 9月
山陽新聞	「軀は福山の宝」市民と研究者意見交換	伊東 孝	05年 9月
毎日新聞	軀の浦「歴史的価値や開発、市全体の問題」	伊東 孝	05年 9月
日本経済新聞	幻の「エッフェル橋」あった	伊東 孝	05年 9月
CE 建設業界 Vol. 54-10, pp. 8-10	横浜・神戸 近代文明の博覧会都市	伊東 孝 西山芳一(写真)	05年 10月
新世 No. 696, pp. 46-48	勝関橋をあげよう！	伊東 孝(取材記事)	05年 10月
讀賣新聞	勝関橋どう活用 “開かずの橋” もし開いたら…	伊東 孝	05年 10月
両郡橋と中ノ口川・新潟電鉄シンポジウム実行委員会	両郡橋・電鉄・中ノ口川シンポジウム実施報告書	伊東 孝 他	05年 11月
CE 建設業界 Vol. 54-11, pp. 8-10	煉瓦アーチ橋のデザイン 東京・ベルリン	伊東 孝 西山芳一(写真)	05年 11月
南日本新聞	「潮見橋重文級の価値」土木学会委員現地保存市に要請	伊東 孝	05年 11月
日刊建設工業新聞	郷土愛を育む身近な土木を再発見し市民参加で維持管理を	伊東 孝	05年 11月
讀賣新聞	平等院 小田原城 国会議事堂 東京駅…後ろに高層ビル許せますか	伊東 孝	05年 11月
CE 建設業界 Vol. 54-12, pp. 8-10	内田三連橋梁 未完の美	伊東 孝 西山芳一(写真)	05年 12月
ponte No. 24, pp. 2-3	橋のある「まち」21 荒川橋梁群	伊東 孝	05年 秋冬
環境工学研究室（岩井茂雄 教授・吉永聖仁 副手）			
■ 審査付き論文			
土木学会舗装工学論文集 第10巻 pp. 135-142	排水性舗装の表面形状の変化を考慮したマイクロテクスチャの評価方法の提案	増山幸衛 片山潤之介 草刈憲嗣 岩井茂雄	05年 12月
■ 著書			
土木学会継続教育実施委員会編	土木技術者倫理問題 考え方と事例解説	岩井茂雄(共著)	05年 7月
建設図書 舗装編集委員会	舗装の質疑応答 第9巻 pp. 183-187, pp. 213-222, pp. 229-235	岩井茂雄(共著)	05年 7月
■ 口頭発表			
土木学会第60回年次学術講演会概要集 共通セッション pp. 12-13	小学校総合学習への土木工学からの支援（その3）	峯岸邦夫 岩井茂雄 野水雅之 依田照彦 奥村俊行	05年 9月
基礎力学研究室（下辺 悟 助教授）			
■ 口頭発表			
地盤工学会第40回地盤工学研究発表会平成17年度発表講演集（冊子・CD-ROM版） pp. 507-508	ADR法による山砂の含水量と乾燥密度の推定	下辺 悟 大南信人 森 喬男 横山 誠	05年 7月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 624-625	拡張フォールコーン法に基づく土の液性指数の評価	下辺 悟 小林保彦 安達哲也 竹中 聡	05年 11月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 638-639	ADR法による土の含水量と乾燥密度の推定	下辺 悟 大南信人 遠藤徳和 屋宮一公	05年 11月
交通計画第二研究室（高田邦道 教授・小早川 悟 専任講師）			
■ 著書			
日交研シリーズB-117 日本交通政策研究会シンポジウム「交通政策立案に社会実験は役立つか？」 pp. 34-57	交通社会実験の評価と展望	岸井隆幸(日本大学理工学部教授) コーディネーター・土屋正忠 (武蔵野市長) 桑野和泉 (由布院温泉観光協会事務理事) 森野美徳 (都市ジャーナリスト) 高田邦道 久保田尚 (埼玉大大学院助教授)	05年 3月
森北出版 谷口栄一編著「現代の新都市物流」 pp. 190-194	社会実験に基づく物流施策の評価	高田邦道	05年 3月
日本交通政策研究会 p. 40	都市における二輪車の役割に関する研究	高田邦道(編著) 小早川悟 森合祐太(研修生) 齊藤祐紀(39期・所沢市役所) 他	05年 8月

■ 査読論文／論説／巻頭言

国土と政策 No.24, pp. 39-45	交差点ハンプ実現の計画的・技術的条件	高田邦道 南部繁樹 (19期・(株)アーバン・トラフィック・エンジニアリング) 葛山順一 (26期・鎌ヶ谷市)	05年 3月
(財)姿勢研究所 POSTURE Vol. 25, pp. 32-37	日本大学理工学部における電動アシスト自転車の共同利用システム	小早川悟	05年 5月
運輸と経済 第65巻 第9号 pp. 54-63	東京郊外部における日本型P & Rシステムの可能性	小早川悟 吉田俊祐 高田邦道	05年 9月
交通工学 増刊号 Vol. 40, pp. 1-2	都市交通の基本『歩行者交通』	高田邦道	05年 10月
交通工学 増刊号 Vol. 40, pp. 70-75	ワシントン州における歩行者用施設整備	西原相五 (12期・(株)アーバン・トラフィック・エンジニアリング) 高田邦道	05年 10月
道路建設 No. 690, pp. 9-11	新しい時代の道路建設—技術論の視点から展望する—	高田邦道	05年 10月
交通工学研究会	交通安全対策としての交差点ハンプの評価	鈴木正徳 葛山順一 南部繁樹 高田邦道	05年 11月
3.016 Session, pp. 1-7	Development of A Taxi Dispatching Information Network system Linking GPS-AVM Systems	Noriuki Tsukada (31期・日本無線), Kunimichi Takada	05年 11月

■ 口頭発表

平成16年度国際交通安全学会研究調査報告会	市民参加型交通対策支援システムの面的な交通安全対策への適用	赤羽弘和 (千工大教授) 南部繁樹 葛山順一 高田邦道 木戸伴雄 他	05年 4月
土木学会第60回年次学術講演会講演論文集 4-346	ハイヤー需要削減下におけるタクシー交通の運用に関する研究	塚田悟之 高田邦道	05年 9月
土木計画学研究・講演集 Vol. 32	都市における自動二輪車の駐車問題 —東京都千代田区大手町・丸の内・有楽町地区を事例として—	古賀浩樹 小早川悟 高田邦道	05年 12月

■ その他

(社)自動車技術会共同研究センター「将来の交通・安全委員会」p. 18	道路交通工学から考える安全	高田邦道	05年 3月
(社)自動車技術会共同研究センター「将来の交通・安全委員会」p. 19	提言—事故半減をめざして	高田邦道	05年 3月
千代田区まちづくり推進部 p. 75	秋葉原駐車場案内・誘導システム検討委員会報告書	高田邦道 (編)	05年 3月
桜工 No. 87, p. 9	CST ミュージアム誕生までの経緯	高田邦道	05年 3月
(財)国際交通安全学会 IATSS Review, Vol.30, 増刊号 (設立30周年記念誌「よりよきモビリティ社会をめざして」) p. 223	IATSS と私	高田邦道	05年 3月
朝日新聞コメント	赤い路線帯 事故減	高田邦道	05年 4月
JAMAGAZINE, Vol. 39, pp. 32-33	都市交通における二輪車の役割に関する研究	高田邦道	05年 8月
日本交通政策研究会 pp. 24-25	自動車交通研究 —環境と政策—	高田邦道 小早川悟	05年 11月

運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 助教授)

■ 査読論文

第25回交通工学研究論文集 pp. 185-188	端末交通における経路情報提示型 Web アンケート手法導入の可能性に関する研究	須永貴之 轟 朝幸 谷口滋一	05年 11月
---------------------------	---	-------------------	---------

■ 口頭発表

第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集 IV-17	情報提示型アンケートシステムを用いたバス路線計画手法に関する研究	大西貴佳 轟 朝幸 谷口滋一	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集 IV-18	個人に即した駅端末交通経路情報提示型 Web アンケート司法の可能性	須永貴之 轟 朝幸 谷口滋一	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集 IV-28	鉄道整備の遅延による効果損失の影響分析	栗野壽一 轟 朝幸	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集 IV-59	みなとまちづくりを行うNPOの現状と課題	村川貴紀 轟 朝幸	05年 3月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31 CD-4	地方空港の需要喚起策の実態と貨物バリー便の活用可能性について	轟 朝幸	05年 5月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31 CD-41	改善型評価手法を用いたKoCoRoウェブの改善について	岡村健志 轟 朝幸 北川 尚 熊谷靖彦	05年 5月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31 CD-42	公共交通乗り換え検索ログの特性分析と活用可能性について	轟 朝幸 谷口滋一 高宮則夫	05年 5月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31 CD-282	住民参加型コミュニティバス計画における情報提示型システムの果たす役割に関する研究	谷口滋一 小山 茂 轟 朝幸 大西貴佳	05年 5月

第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 510-511	都市鉄道新線整備の遅延による効果損失の社会的課題	栗野壽一 轟 朝幸	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 502-503	個別バス利用情報提示型 web アンケートシステムを用いたバ ス路線計画手法に関する研究	大西貴佳 轟 朝幸 谷口滋一	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 506-507	水上飛行機の利用実態および水上飛行場の設置基準に関する研 究	角田 健 轟 朝幸	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 500-501	みなとまちづくりにおける NPO 関与の実態調査	村川貴紀 轟 朝幸	05 年 11 月
日本交通学会 2005 年度研究報告 pp. 93-99	都市鉄道新線整備の遅延による効果損失の影響分析	栗野壽一 轟 朝幸	05 年 12 月

情報工学研究室（中山晴幸 専任講師）

■ その他

テレビ朝日 スーパー J チャンネル（夕方の ニュース番組）	自転車衝突時の衝撃荷重の大きさについてコメント	中山晴幸	05 年 5 月
テレビ朝日 スーパー J チャンネル（夕方の ニュース番組）	高速道路上の落下物の危険性についてコメント	中山晴幸	05 年 8 月
TBS 噂の！東京マガジン（日曜日の情報番 組）	自転車衝突した時の衝撃荷重を測定し、その危険性について コメント	中山晴幸	05 年 10 月
TBS きょう発プラス！（昼の情報番組）	自転車と歩行者の衝突時の危険性についてコメント	中山晴幸	05 年 11 月
日本テレビ THE・サンデー（日曜朝の情報 番組）	自転車と歩行者の衝突の危険性についてコメント	中山晴幸	05 年 11 月

交通システム研究室（福田 敦 教授）

■ 査読論文

土木学会論文集 No. 786 / IV-67, pp. 31-38	大学キャンパスを中心とする電動アシスト自転車による共同利 用の取り組み	石坂哲宏 福田 敦	05 年 4 月
Journal of International Associational of Traffic and Safety Sciences Vol. 29 pp. 88-100	Traffic Accidents in Thailand	Yordphol Tanaboriboon, Thaned Satiennam	05 年 5 月
国際交通安全学会誌 Vol. 30, No. 2, pp. 49-57	交通処理から見た交差点への小型車専用立体交差導入の評価	福田 敦 小田崇徳 石坂哲宏 室井寿明	05 年 8 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6 (2005), pp. 1929-1942	Investigating Travel Behavior Associated with the Introduction of Car-sharing System in Bangkok, THAILAND	Aphisit PHOOWARA WUTTHIPANICH, Tuenjai FUKUDA, Sorawit NARUPITI, Atsushi FUKUDA	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6 (2005), pp. 1971-1986	Analysis of Car Sharing Application on Consumer Orientation and Their Modal Selection in Bangkok	Tuenjai FUKUDA, Shigeru KASHIMA, Atsushi FUKUDA, Sorawit NARUPITI	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6 (2005), pp. 2210-2222	Study on Introduction of the Exclusive Over/Underpass for Small Vehicles in Japan	Toshiaki MUROI, Atsushi FUKUDA, Takanori ODA, Katsuhisa YAMAURA	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6 (2005), pp. 2502-2514	Evaluation of Probe Vehicle System by Using Micro Simulation Model and Cost Analysis	Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA, Sorawit NARUPITI	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.6 (2005), pp. 3090-3104	Benefit Incidence Analysis of Mitigation Banking System on Road Project	Hideyuki ITO, Atsushi FUKUDA	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, pp. 3199-3210	Comparison between the Compensatory Mitigation Plan based on HEP and Created Substitutive Ponds for Spawning	Shinya FUJIWARA, Atsushi FUKUDA, Hideyuki ITO	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, pp. 3225-3240	Preliminary Study on Estimation of Ancillary Benefits from Potential Clean Development Mechanism (CDM) Project in Transport Sector	Otkur GOJASH, Atsushi FUKUDA, Yosui SEKI	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, pp. 3683-3696	Empirical Study on Identifying Potential Black Spots through Public Participation Approach: A Case Study of Bnagkok	Tuenjai FUKUDA, Chamroon TANGPAISALKIT, Tetsuhiro ISHIZAKA, Tusanee SINLAPABUTRA, Atsushi FUKUDA	05 年 9 月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, pp. 4208-4223	The Implementation of Traffic Impact Assessment in Southeast Asian Cities: Case Studies of Thailand and the Philippines	Karin LIMAPORNWANITCH, Cresencio M. MOMTALBO Jr., Kazunori HOKAO, Atsushi FUKUDA	05 年 9 月
第 40 回日本都市計画学会論文集 Vol. 40, No. 2, pp. 877-882	都市近郊における道路整備事業へのミチゲーションバンク適用 の可能性に関する研究 —首都圏中央連絡道路（幸手市区間）を対象として—	伊東英幸 福田 敦	05 年 11 月

■ 口頭発表

84th Annual Meeting of Transportation Research Board	Identifying Potential Market for Carsharing Though Modal Choice Behavior and Socioeconomic Perspectives: Case Study of Bangkok Metropolis	Tuenjai Fukuda, Atsushi Fukuda, Michel Todd	05年 1月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	ミラーリング法による交通安全教室の効果の評価に関する研究	長井裕美子 福田 敦	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	バンコクにおける二輪車・四輪車保有および利用と世帯特性の関連分析	長井裕美子 福田 敦 福田トウエンチャイ 端野良彦	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	緊急車両優先システムの評価のためのシミュレーションモデルの構築	吉田 翔 福田 敦 石坂哲宏	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	バンコクの地下鉄利用経験による沿線住民の態度・行動の変容の分析	堀 博 福田トウエンチャイ 福田 敦	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	バスの乗降時間を考慮したバス乗降感応式信号制御導入に関する研究	矢吹祐輔 福田 敦 室井寿明 Thaned Satiennam	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	アイドリングストップ事業のCDMとしての成立可能性に関する研究	佐藤慶一 福田 敦 ウディクル・ゴジャシ	05年 3月
第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集	道路周辺におけるオープンスペースを活用したミチゲーションバンクサイト候補地の検討	山岸亜由美 伊東英幸 福田 敦	05年 3月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31	プローブカーシステムを活用した開発途上国における都市交通データ収集の可能性に関する研究 —タイ国バンコクを対象として—	岡部博志 福田 敦 石坂哲宏	05年 6月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31	ASEAN 諸国における交通事故データの整備状況と今後の取り組み	福田トウエンチャイ 山下幸男 福田 敦	05年 6月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31	バンコクにおける運輸事業からのCO2排出量の推計に関する研究	福田 敦 山下幸男 舩巴 亮 白川泰樹	05年 6月
土木計画学研究・講演集 Vol. 31	大規模交通シミュレーションを利用したプローブカーシステムの導入可能性の検討	石坂哲宏 福田 敦	05年 6月
The Seventh International Summer Symposium, JSCE	Utilization of Public Participation Approach to Identify Hazardous Locations in Bangkok Metropolis	Tuenjai Fukuda and Atsushi Fukuda	05年 7月
Proceedings of the Seventh International Summer Symposium, Tokyo, July 30, pp. 219-222	A Tactic to Reduce Lost of Green Time at Nearside Bus Stops for PTPS Operating along Two-lane Arterials	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda and Toshiaki Muroi	05年 7月
2005年度環境アセスメント学会研究発表会要旨集	モリアオガエルのHSIモデルの構築とその適用可能性に関する研究 —日光宇都宮道路の代替産卵池を対象として—	伊東英幸 福井真也 福田 敦	05年 9月
土木学会第60回年次学術講演会講演概要集	モリアオガエルのSIモデル構築に関する研究	伊東英幸 福井真也 福田 敦	05年 9月
土木学会第60回年次学術講演会講演概要集	コンケン市を対象とした交通シミュレーションモデル適用方法の検討	大島良輔 福田 敦 Pongrid KLUNGBONKONG Thaned SATIENNAM	05年 9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 5, pp. 1309-1321	AN ENHANCED PUBLIC TRANSPORTATION PRIORITY SYSTEM FOR TWO-LANE ARTERIALS WITH NEARSIDE BUS STOPS	Thaned SATIENNAM, Atsushi FUKUDA, Toshiaki MUROI, Sarawut JANSUWAN	05年 9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 5, pp. 2002-2017	Research on Traffic Safety Education and Evaluation of Its Effects in Chiba Prefecture, Japan	Yumiko NAGAI, Atsushi FUKUDA	05年 9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 5, pp. 2352-2364	Comprehensive Transportation Policy Development using Traffic Simulation Technique for Khon Kaen City, Thailand	Thaned SATIENNAM, Ryosuke OSHIMA, Atsushi FUKUDA, Pongrid KLUNGBONKONG	05年 9月
第26回日本道路会議論文集	道路整備事業における代償ミチゲーションの実施可能性の検討 —首都圏中央連絡道路（幸手市区間）を対象として—	伊東英幸 福田 敦	05年 10月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市交通計画部門）	タイにおけるヒヤリハット地図づくりワークショップの開催 —ウドンタニ市を対象として—	福田 敦 岡村 誠 石川博章 萩田基司 佐藤朋美 藤田 匠 福田トウエンチャイ Thaned Satiennam 石坂哲宏 岡部博志	05年 11月
土木計画学研究・講演集 Vol. 32	The Strategy to Reduce Lost of Green Time at Nearside Bus Stops for Bus Route Operating Along Two-Lane Arterials	Thaned SATIENNAM, Atsushi FUKUDA, Toshiaki MUROI	05年 12月
■ その他			
国土交通省・（社）海外運輸協力協会（JTCA）・タイ運輸省	報告書「Report of International Seminar on Study to Promote Clean Development Mechanism in Transport Sector to Resolve Global Warming Problem “Utilization of Bio-Diesel as Alternative Fuel”」	福田 敦	05年 3月

(社)海外運輸協力協会（JTCA）	平成 16 年度地球環境問題解決のためのクリーン開発メカニズム（CDM）推進事業報告書	福田 敦	05 年 3 月
(社)海外運輸協力協会（JTCA）	報告書「運輸分野における CDM ガイドライン	福田 敦	05 年 3 月
(社)海外運輸協力協会（JTCA）	平成 16 年度クリーン開発メカニズム（CDM）運営組織のあり方に関する調査報告書	福田 敦	05 年 3 月
(財)国土技術センター 新道路研究会成果報告会	報告書「シミュレーションソフトを活用した総合的道路交通環境改善施策の評価」	福田 敦	05 年 6 月
琉球新報	交通システムと街の活性化 ー中心地に公共施設戻せー	福田 敦	05 年 11 月
Institute of Transportation Studies (ITS), University of California, Davis	報告書「Carsharing and Station Cars in Asia : An Overview of Japan and Singapore」	Matthew Barth, Susan Shaheen, Tuenjai Fukuda, Atsushi Fukuda	05 年 12 月
交通環境研究室（藤井敬宏 助教授）			
■ 著書			
(財)道路経済研究所 pp. 6-15	交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究 3 「物流」関連用語の社会での活用状況	藤井敬宏(分担執筆)	05 年 3 月
■ 査読論文			
運輸と経済	NOx・PM 法およびディーゼル車排出ガス規制によるトラック事業者への影響について	藤井敬宏 岡部 順 景山あずさ	05 年 10 月
■ 口頭発表			
土木計画学研究・講演集 Vol. 31	交通バリアフリーの発展的継続に関する市民参加の評価	金子俊之 伊藤将司 藤井敬宏 杉原徳充 早川喜也	05 年 5 月
日本福祉のまちづくり学会第 8 回全国大会概要集 pp. 50-53	船橋市の社会福祉施設における防災対策に関する研究	藤井敬宏 小林 繁	05 年 6 月
土木学会第 60 回年次学術講演会概要集 第Ⅶ部門	GIS を用いた緑地空間の定量的把握に関する研究	木下明生 藤井敬宏 吉永聖仁	05 年 9 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 464-465	伊豆縦貫道路の整備に向けた市民まちづくり会議の取り組みについて	藤井敬宏 倉持孝慎 青木太一 赤木慎一郎	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 466-467	下田市既成市街地における交通変化と住民意識に関する研究	藤井敬宏 倉持孝慎	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 472-473	3 次元画像処理ソフトを活用した補講空間評価に関する研究	藤井敬宏 齋藤良中 金木卓也 玉置亜紗子	05 年 11 月
第 49 回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 475-476	NOx・PM、ディーゼル車走行規制の効果と影響に関する研究	藤井敬宏 岡部 順 景山あずさ	05 年 11 月
構造工学第一研究室（星埜正明 教授）			
■ 著書			
技報堂 (社)プレストレストコンクリート技術 協会編	複合橋設計施工規準	星埜正明(編集協力)	05 年 11 月
■ 査読論文			
土木学会第 6 回複合構造の活用に関するシン ポジウム	ゴムラテックスコンクリートを用いた連続合成桁に関する基礎 実験研究	大垣賀津雄 海老原竜司 杉浦 江 佐竹神也 星埜正明	05 年 11 月
土木学会第 6 回複合構造の活用に関するシン ポジウム	ゴムラテックスモルタル合成鋼板に関する基礎実験研究	大垣賀津雄 杉浦 江 奥田久志 星埜正明	05 年 11 月
土木学会第 6 回複合構造の活用に関するシン ポジウム	ゴムラテックスモルタルを合成した鋼床版応力の解析的研究	永生洋樹 星埜正明 大垣賀津雄 杉浦 江	05 年 11 月
■ 口頭発表			
土木学会第 60 回年次学術講演会講演論文 集	ゴムラテックス混入鉄筋コンクリートのひび割れ性状	作川孝一 岡島末奈 星埜正明	05 年 9 月
土木学会第 60 回年次学術講演会講演論文 集	ゴムラテックス混入モルタル合成構造に関する基礎的研究	下土居秀樹 大垣賀津雄 星埜正明	05 年 9 月
土木学会第 60 回年次学術講演会講演論文 集	ゴムラテックスモルタルを合成した鋼床版の応力解析	永生洋樹 星埜正明 大垣賀津雄	05 年 9 月
地盤工学研究室（巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手）			
■ 査読論文			
(社)地盤工学会第 6 回環境地盤工学シンポジウ ム論文集 pp. 25-30	発泡廃ガラスを用いた軽量化地盤材料の工学的特性と補強土工 法への適用性の検討	峯岸邦夫 巻内勝彦 久保哲也(前田工織)	05 年 5 月

国際ジオシンセティックス学会日本支部編 ジオシンセティックス論文集 第20巻 pp. 61-66	ジオドレーン材による盛土地盤強化と土壌浄化性能	今野雄太 巻内勝彦 峯岸邦夫	05年 12月
国際ジオシンセティックス学会日本支部編 ジオシンセティックス論文集 第20巻 pp. 97-100	軽量土を充填したホース状織物の基本特性について (その1)	峯岸邦夫 柴田健一 (芦森工業) 倉田正博 (同) 牧迫達郎 (麻生フォームクリート)	05年 12月

■ 口頭発表

(社)地盤工学会第40回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	ジオテキスタイルドレーン材の水理特性と地盤浄化	巻内勝彦 峯岸邦夫 今野雄太	05年 7月
土木学会第60回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	小学校総合学習への土木工学からの支援 (その3)	峯岸邦夫 依田照彦 (早稲田大) 奥村俊行 (国際航業)	05年 9月
第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 622-623	紙パイプによる現場発泡地盤軽量材硬質ウレタンフォームの変形抑制効果	峯岸邦夫 巻内勝彦	05年 11月
(社)地盤工学会関東支部第2回地盤工学研究発表会 (Geo-Kanto 2005) 講演概要集 pp. 51-52	地盤強化併用浄化におけるジオシンセティックスドレーン材の水理特性	安部智幸 巻内勝彦 峯岸邦夫 今野雄太	05年 11月
(社)地盤工学会関東支部第2回地盤工学研究発表会 (Geo-Kanto 2005) 講演概要集 pp. 53-54	地盤強化併用浄化におけるジオシンセティックスドレーン材の浄化性能	今野雄太 巻内勝彦 峯岸邦夫 安部智幸	05年 11月

構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授・齊藤準平 助手)

■ 査読論文

第14回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 pp. 151-154	外ケーブル方式T形PRCはりのせん断挙動	井口 淳 柳沼善明	05年 11月
---	----------------------	-----------	---------

■ 口頭発表

第48回日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集 (土木工学部会) pp. 143-146	外ケーブル方式T形PRCはりのせん断挙動解析	井口 淳 柳沼善明	05年 12月
第48回日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集 (土木工学部会) pp. 147-150	外ケーブル定着部の破壊実験	長谷川晃久 井口 淳 山本栄悟 柳沼善明	05年 12月
第48回日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集 (土木工学部会) pp. 151-154	人工ゼオライトを用いたコンクリートの有効利用に関する基礎研究	立野忠利 柳沼善明	05年 12月

道路交通研究室 (安井一彦 専任講師)

■ 査読論文

(社)交通工学研究会第25回交通工学研究発表会論文集 pp. 5-8	踏切連動信号機の導入効果に関する研究	小貝真史 安井一彦	05年 10月
(社)交通工学研究会第25回交通工学研究発表会論文集 pp. 9-12	歩車分離信号の効果に関する研究	阿部浩幸 安井一彦	05年 10月
(社)交通工学研究会第25回交通工学研究発表会論文集 pp. 29-32	首都高速道路合流部の車線運用に関する研究	吉川裕子 森田緯之 安井一彦 木村純司	05年 10月
(社)交通工学研究会第25回交通工学研究発表会論文集 pp. 77-80	追突事故多発交差点における車両挙動に関する研究	林 一郎 安井一彦	05年 10月

■ 口頭発表

第49回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	信号制御におけるインターグリーンの再評価	木村純司	05年 11月
------------------------	----------------------	------	---------

■ その他

JAF メイト	ジレンマゾーンで事故は起きている	安井一彦	05年 6月
---------	------------------	------	--------

水環境システム研究室 (吉川勝秀 教授)

■ 著書

技報堂出版	流域圏プランニングの時代	石川幹子 岸 由二 吉川勝秀 (編著)	05年 3月
技報堂出版	川からの都市再生 —世界の先進事例から—	吉川勝秀 (編著)	05年 3月
技報堂出版	河川流域環境学 —21世紀の河川工学—	吉川勝秀	05年 3月
山海堂	建設工事の安全管理	三浦裕二 吉川勝秀 (監訳)	05年 8月
山海堂	川のユニバーサルデザイン —社会を癒す川づくり—	吉川勝秀 (編著)	05年 9月

■ 査読論文

Urban River Rehabilitation Proceedings, International Conference on Urban River Rehabilitation URRC 2005, pp. 303-311	On the Progress of Urban River Restoration and the Future View in Japan and Asia	Katsuhide Yoshikawa, Yoshiki Motonaga, Masafumi Yamaguchi	05年 9月
---	--	---	--------

■ 口頭発表

土木学会第 60 回年次学術講演会講演論文集
pp. 533-554

水辺からの都市再生シナリオに関する研究

吉川勝秀 本永良樹 05 年 9 月

■ その他

土木施工 Vol. 46, No. 2, pp. 86-92

川からの都市再生
—韓国・ソウルと徳島を例に—

吉川勝秀 05 年 2 月

水文・水資源学会誌 Vol. 18, No. 4,
pp. 469-475

ヨーロッパにおける河川環境等の情報ネットワーク事例の紹介
—アジアにおける河川情報等ネットワークの構築に向けて—

吉川勝秀 本永良樹 05 年 7 月

西日本新聞

「森、川、海は一つの流域圏」、再生模索へ学会設立

吉川勝秀 05 年 10 月

熊本日日新聞

「森、川、海……“流域”を一体的に研究」、あす発足、記念講演も

吉川勝秀 05 年 10 月

熊本日日新聞

不知火海・球磨川流域圏学会が発足、市民と連携 課題解決へ

吉川勝秀 05 年 10 月

建設通信新聞

「JIS 化し事故削減」、ACCESS 法面足場で活発議論

吉川勝秀 05 年 11 月

日韓建設産業新聞

「労災死者数削減へ意欲」、吉川委員長らが会見

吉川勝秀 05 年 11 月

建設通信新聞

「法面工事用仮設設備」JIS 化へ、ユーザー意見反映を

吉川勝秀 05 年 11 月

社会的活動

■ 天野光一 教授

(社)土木学会 景観・デザイン委員会幹事長

富士市 都市景観審議会会長

富士宮市 都市景観審議会会長

道路環境研究所 道路デザイン指針（仮称）検討委員会

道路空間高度化機構 伊豆縦貫道路道路空間高度化検討委員会
委員長

■ 伊澤 岬 教授

八千代市 交通バリアフリー基本構想策定協議会会長

八千代市 福祉有償輸送運営協議会会長

鎌ヶ谷市 福祉有償輸送運営協議会会長

印西市 木下貝層・活用検討委員会委員

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会委員

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
WG 委員

学生設計優秀作品展委員会 委員

(社)土木学会 景観・デザイン委員会委員／景観デザイン研究編
集小委員会委員

日本福祉のまちづくり学会幹事／第 8 回全国大会実行副委員長

NPO 法人ネット房総 代表理事

八千代バリアフリーフォーラム副代表

■ 伊東 孝 教授

文部科学省 文化庁文化審議会専門委員

東京都 文化財保護審議会専門委員

埼玉県 文化財保護審議会専門委員

富山県 文化財保護審議会専門委員

千代田区 景観まちづくり審議会委員

(社)土木学会 土木史研究委員会委員長

(社)土木学会 土木史研究委員会オール・ヒストリー研究小委
員会小委員長

(社)土木学会 選奨土木遺産選考委員会委員

(社)土木学会 関東支部選奨土木遺産選考委員会委員長

(社)土木学会 関東支部運営幹事会幹事

(財)江戸東京博物館 運営委員会企画展示専門部会委員

川崎市 市民ミュージアム・アドバイザー

全国町並み保存連盟 常任理事

産業考古学会 理事

(社)日本ナショナル・トラスト 評議員

みんなのチエを集めて勝岡橋をあげる会 代表

まちづくり鞆工房（NPO）顧問

公益信託大成建設自然・歴史環境基金 運営委員

■ 岩井茂雄 教授

(社)土木学会 土木教育委員会、継続教育実施委員会幹事

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会・生涯学習小委員会委
員長

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会委員長

(社)土木学会 表彰委員会委員

(社)土木学会 舗装工学論文編集小委員会委員

(社)土木学会 平成 17 年度土木学会全国大会実行委員会 学術
部会委員（第Ⅶ班、副班長）

(社)インターロッキングブロック舗装技術協会 監事

(社)日本石灰協会 石灰安定処理委員会委員

国土交通省 関東地方整備局平成 17 年度建設技術展示館審査
委員会委員

(株)建設図書 「舗装」編集委員会副委員長

■ 高田邦道 教授

千葉県東葛飾 鎌ヶ谷大仏交差点住民検討会委員長

白井市 都市計画審議会会長

(社)土木学会 技術推進機構技術者資格委員会・上級技術者資格
小委員会委員

(社)土木学会 技術推進機構技術者資格委員会・特別上級技術者
資格小委員会委員

市川市 交通対策審議会委員

市川市 交通対策審議会・総合交通計画専門部会部長

(社)国土政策研究会 理事

(財)日本交通管理技術協会 理事

国土交通省 関東運輸局関東地方交通審議会専門委員

千代田区 駐車場整備計画検討委員会会長

(財)千葉県まちづくり公社 君津市駐車場整備計画策定調査委員
会委員長

(社)環境情報科学センター 環境情報科学論文集 17 査読委員

(社)国土政策研究会 PFI 研究会委員

千葉県 大気環境保全対策専門委員会委員

(財)国際交通安全学会 顧問
(社)国政策研究会 都市・農山漁村研究会副座長
(社)日本都市計画学会 評議員
東京都環境局 交通需要マネジメント検討会議委員
(社)日本駐車場工学研究会 理事
鎌ヶ谷市 交通事故半減プロジェクト推進協議会会長
(財)道路経済研究所 物流施策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方に関する研究会委員長
日本ロジスティックスシステム学会 評議員
日本交通政策研究会 道路空間の配分方法と住民参加に関する研究会主査

■ 福田 敦 教授

(社)土木学会 技術推進機構技術者教育プログラム審査委員会幹事長
(社)土木学会 資格制度「調査・計画」分野別小委員会委員
(社)土木学会 土木計画学研究委員／春大会幹事会幹事
(社)土木学会 政策マネジメント研究小委員会委員
(社)土木学会 土木計画のための態度・行動変容研究小委員会委員
(社)交通工学研究会 大都市交通問題対策委員会委員
(社)交通工学研究会 出版委員会新規出版小委員会委員
(社)交通工学研究会 研究発表会論文審査委員会委員
(社)交通工学研究会 自主研究ニュータウン交通事後評価委員会委員
(財)国際交通安全学会 学会誌編集委員会委員
(財)国際交通安全学会 ISSOT アドバイザー
計画・交通研究会 幹事
日本橋学生工房 アドバイザー
アジア交通学会 (EASTS-Japan) 理事
アジア交通学会 国際学術委員会委員
コンケン大学 Sustainable Infrastructure Research and Development Centre (SIRDC) アドバイザー
日本技術者教育認定機構 基準委員会委員
(独)国際協力機構 都市交通コンテンツ開発支援委員会委員
(財)運輸政策研究機構・国際問題研究所 途上国道路輸送CO₂排出抑制政策に関する研究会委員
(財)海外運輸協力協会 アドバイザー
(財)海外運輸協力協会 平成16年度地球環境解決のためのCDM推進事業(国土交通省委託)委員長
(財)海外運輸協力協会 運輸部門におけるクリーン開発メカニズム(CDM)のOE育成に関する検討委員会(国土交通省委託)委員長
国土交通省 国土技術政策総合研究所道路研究室道路マネジメント勉強会委員
千葉県警察 「21世紀の交通施策を語る会」会長
八千代市 都市計画審議会委員
那覇市 トランジットマイル導入委員会幹事会副幹事長

■ 星埜正明 教授

(社)プレストレストコンクリート技術協会 複合橋設計施工規準改訂委員会委員

■ 巻内勝彦 教授

経済産業省 日本工業標準調査会(JIS)土木技術専門委員会委員
(社)土木学会 ISO対応特別委員会幹事兼委員
(社)地盤工学会 ISO検討委員会委員長
(社)地盤工学会 ジオシンセティックス国際標準対応委員会委員

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会委員
国際ジオシンセティックス学会(IGS) 日本支部副支部長
国際ジオシンセティックス学会(IGS) 日本支部2006国際会議実行委員会副委員長
国際ジオシンセティックス学会(IGS) 日本支部表彰委員会委員
(社)電気設備学会 電力用ケーブルの地中埋設の施工方法JIS改正原案作成調査委員会委員長
(社)インターロッキング舗装技術協会 監事
(社)インターロッキング舗装技術協会 関東支部技術委員会委員長
(社)インターロッキング舗装技術協会 舗装技術委員会特別委員
(社)日本規格協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価方法の標準化委員会委員長
(社)日本建材産業協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価標準化ワーキンググループ委員長
(財)土木研究センター 土木工学国際研究交流助成制度選考委員会委員
(財)土木研究センター 多数アンカー式補強土壁工法マニュアル改訂委員会委員長
(財)土木研究センター アンカー式補強土壁工法研究委員会委員長
(財)土木研究センター 箱型擁壁に関する耐震性技術検討委員会委員長
(財)土木研究センター 侵食防止シート検討委員会委員長
(財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド アダム審査証明委員会委員
(財)土木研究センター 排水性盛土補強ジオテキスタイル ダイヤベース審査証明委員会委員
(財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド スパイクグリッド審査証明委員会委員
(財)土木研究センター 袋型根固め工法用袋材 E-ユニット審査証明委員会委員
(財)高速道路技術センター 気泡混合軽量土を用いた軽量盛土工法の付帯工に関する検討委員会委員

■ 柳沼善明 教授

(社)土木学会 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会委員
(社)土木学会 PC構造物の現状とその対策に関する小委員会委員
(社)土木学会 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会委員
(社)日本コンクリート工学協会 関東支部役員

■ 吉川勝秀 教授

水文・水資源学会 監事
茨城県 水環境活用方策検討委員会委員
水辺環境に関する国際情報ネットワーク検討委員会委員(リバーフロント整備センター)
斜面・法面工事用仮設設備JIS化原案作成委員会委員長(日本規格協会・全国仮設安全事業協同組合)
内閣府総合科学技術会議 科学技術予算要求の優勢順位付けに係わる外部専門家
内閣府総合科学技術会議 環境分野 分野別推進戦略プロジェクトチーム招聘委員
国立環境研究所 地球環境研究総合推進費S-4(温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究) アドバイザリーボード
慶應大学 大学院政策・メディア研究科教授(非常勤)
中央大学 大学院理工学研究科講師(非常勤)
東京工業大学 工学部講師(非常勤)

■ 下辺 悟 助教授

人事院 平成 18 年度国家公務員採用Ⅱ種試験（土木）試験専門委員

■ 轟 朝幸 助教授

(社)交通工学研究会 大規模ニュータウンの交通システムの事後評価と改善方策の提言委員会委員

(社)土木学会 土木計画学研究委員会国際交流ネットワーク戦略研究小委員会委員

ATRS 航空輸送に関する国際会議 ATRS 航空輸送に関する国際会議実行委員会委員

計画・交通研究会 事務局次長

国土交通省 航空局入札監視委員会委員

国土交通省 東京航空局入札監視委員会委員

札幌市 公共交通情報活用推進研究会座長

横浜市 道路局横浜市自転車等対策事業指針検討委員会委員

(財)運輸政策研究機構（内閣府沖縄総合事務局委託）那覇空港調査検討委員会委員

(財)運輸政策研究機構（国土交通省鉄道局委託）新たな混雑率指標に関するワーキンググループ委員

(財)運輸政策研究機構（横浜市交通局委託）横浜市営地下鉄需要開拓検討委員

(株)三菱総合研究所（国土交通省航空局委託）航空需要予測手法改善調査委員

■ 藤井敬宏 助教授

(社)土木学会 技術者資格委員会委員

船橋市 都市計画審議会委員

市原市 市原市交通網活性化協議会委員

市原市 市原市福祉有償運送運営協議会委員

習志野市 習志野市福祉有償運送運営協議会会長

(財)道路経済研究所 物流マネジメント検討委員会委員

富士市 富士市公共交通検討委員会委員

三重大学 生物資源学部共生環境学科講師（非常勤）

■ 小早川悟 専任講師

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計編集小委員会幹事

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計計算ソフト小委員会委員長

(社)土木学会 土木史委員会オーラルヒストリー研究小委員会委員

(社)土木学会 土木計画学研究学術小委員会委員

(社)土木学会 第 25 回土木史研究発表会実行委員会委員

■ 安井一彦 専任講師

千葉県 警察本部 UTMS 推進協議会幹事長

千葉県 警察本部交通事故調査委員会委員

千葉県 千葉県交通安全専門者会議委員

(財)日本交通管理技術協会 歩行者用押ボタン箱及び待時間表示装置の改良に関する調査研究委員会委員

(財)日本交通管理技術協会 貨物輸送における路上駐車対策に関する調査研究委員会委員

(財)国際交通安全学会 歩行者の道路横断実態を重視した実用的な最適信号制御の研究委員会委員

(財)道路経済研究所 交通流管理の高度化、CO₂削減効果研究会委員

(社)新交通管理システム協会 交通信号の高度化 WG 委員

(財)高速道路調査会 交通工学研究部会委員

(財)高速道路調査会 交通運用研究委員会幹事

(社)交通工学研究会 交通工学査読委員会委員

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計応用編集小委員会委員

(社)交通工学研究会 雑誌交通工学編集委員会委員

(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック改定委員会委員

(社)交通工学研究会 交通工学研究発表会査読委員

(社)交通工学研究会 首都高速道路における交通安全対策委員会委員

(社)交通工学研究会 伊豆東海岸渋滞対策研究委員会委員

■ 江守 央 助手

ST サービス・交通バリアフリー計画研究小委員会委員

(社)土木学会 景観・デザイン研究編集小委員会委員／「第 1 回 景観・デザイン研究発表会」実行委員

(社)土木学会 第 25 回土木史研究発表会実行委員会委員

日本福祉のまちづくり学会 第 8 回全国大会論文委員

NPO 法人ネット房総 監査

八千代バリアフリーフォーラム事務局長

■ 岸上明子 助手

(社)土木学会 第 25 回土木史研究発表会実行委員会委員

■ 峯岸邦夫 助手

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会幹事

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会（旧土木教育委員会）幹事

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会生涯学習小委員会幹事長

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会生涯学習小委員会委員

(社)地盤工学会 事業部出版企画委員会幹事

(社)地盤工学会 「地盤技術者のための衛星リモートセンシング入門」編集委員会幹事

(社)地盤工学会 「GIS 入門」編集委員会幹事

(社)地盤工学会 調査部混合地盤材料の環境負荷軽減コスト削減に関する研究委員会委員

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会委員

国際ジオシンセティックス学会 日本支部幹事

国際ジオシンセティックス学会 日本支部行事委員会委員長

国際ジオシンセティックス学会 日本支部表彰委員会委員

国際ジオシンセティックス学会 日本支部新技術委員会委員

国際ジオシンセティックス学会 日本支部新技術委員会軽量土部会部会長

■ 野水雅之 副手

(社)土木学会 第 25 回土木史研究発表会実行委員会委員

学外学術活動

■ 伊澤 岬 教授

講演：「海の災害と世界遺産—厳島・ヴェネチアに学ぶ技術とデザイン—」／理工学部公開市民大学講座 2005. 3. 29

講演：「市庁舎改修構想」／八千代バリアフリーフォーラム活動報告会 2005. 4. 9

講演：「ウォーターフロント都市と災害」／梅澤忠雄都市計画

■ 伊東 孝 教授

講演：草加の身近な文化財／草加市 2005. 2. 5

写真展：「土木を撮るⅢ」かたちが放つ土木の磁力／土木を撮る会 2005. 2. 19～3. 4

講演：かわさきの宝物フォーラム PART 3／川崎市企業市民交流事業推進委員会 2005. 2. 22

講演：全国石橋サミット in 上益城／熊本県上益城地域振興局 2005. 3. 11、12

講演：NIKKEI 産業遺産シンポジウム／日本経済新聞社 2005. 3. 24

講演・パネル展示：だれのための文化遺産か 文化遺産の修復情報の集積と公開をととして／日本大学理工学研究所オープンリサーチセンター 2005. 5. 23～28

講師：伊東孝先生と巡る神田川／社東京建設業協会 2005. 6. 6

講師：NIKKEI 産業遺産ウォーキング大会第6回栃木県／日本経済新聞社 2005. 6. 25

講演：近代土木遺産の見方・楽しみ方／土木学会群馬会 2005. 6. 30

パネラー：TICCIH 中間会議 2005 + 産業観光国際フォーラム in 愛知・名古屋／産業観光国際フォーラム実行委員会、TICCIH 日本委員会 2005. 7. 6～8

講演：現代を読むー『橋』／中央区教育委員会 2005. 9. 29～12. 1 (全5回)

講演：大田区の橋ー失われた著名橋／大田区環境セミナー 2005. 10. 6

講演：大田区の河川と水利施設／大田区環境セミナー 2005. 10. 13

現地講師：大田区の近代土木遺産を巡る／大田区環境セミナー 2005. 10. 15

講演：両郡橋・電鉄・中ノ口川シンポジウム／両郡橋と中ノ口川・新潟電鉄シンポジウム実行委員会 2005. 11. 11

講演：アジアにおける文化遺産の情報集積と公開／日本大学理工学研究所オープンリサーチセンター 2005. 11. 21～26

講演：公開講座「都市と公園」ー「歴史遺産と常盤橋公園」／CAPPS 2005. 12. 14

■ 岩井茂雄 教授

講演：総合学習教育支援「新しい舗装と住みやすいまちづくり」／東京都目黒区立烏森小学校 2005. 2. 22

講師：透水性・排水性舗装技術研修 透水性舗装でアメニティ向上／全国建設研修センター 2005. 5. 31

講演：舗装技術講習会「舗装と環境」／静岡県道路舗装協会 2005. 6. 28

講演：技術講演会「舗装と環境」／千葉市建設コンサルタント協会 2005. 10. 21

座長：第10回舗装工学講演会「舗装材料」／土木学会 2005. 12. 16

■ 高田邦道 教授

セミナー：交通事故半減プロジェクト 平成17年度日本大学秋期公開講座「交通事故半減へのトライ」第1回／日本大学生涯学習センター 2005. 9. 27

セミナー：住民判断による住宅地の交通事故対策の選択 平成17年度日本大学秋期公開講座「交通事故半減へのトライ」第4回／日本大学生涯学習センター 2005. 10. 22

座長：「駐車Ⅱ」／第32回土木計画学年次学術講演会 於宮崎大学 2005. 12. 4

■ 福田 敦 教授

講演：「一都市生成のための渋滞解消への取り組みー乗用車専用立体交差」第9回土木鋼構造研究シンポジウム／社日本鉄鋼連盟 2005. 3

講演：「Possibility of CDM Project in Transport Sector」運輸分野におけるCDM事業セミナー（バンコク）／国土交通省・社海外運輸協力協会・タイ運輸省 2005. 3

講演：「日ASEAN交通安全プロジェクト」専門家会合／国土交通省総合政策局 2005. 3

司会：JABEEによる教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」受審校研修会／社土木学会技術推進機構 2005. 5

司会：第31回土木計画学研究発表会（春大会）／社土木学会 2005. 6

講師：JABEE審査員養成研修会／社土木学会技術推進機構 2005. 6

講演：「Current Situation of Green House Gas Reduction and Application of Clean Development Mechanism in Transportation Sector」温室気体減量策略専門家会議／中華民国環境保護學會・行政院環境保護署・社東亜科学技術協力協会 2005. 7

司会：「Traffic Flow Analysis」／アジア交通学会 2005. 9

講演（Plenary Session）、パネルディスカッションモデレータ：「The Present Status and Future Prospect about Motorcycle Usage in Asian Countries」／第11回小型エンジン技術会議（バンコク） 2005. 10

講師：JICA 集団研修「総合都市交通計画プロジェクトⅡ」／社国際協力機構 2005. 11

講演、パネルディスカッション司会：平成17年度中心市街地活性化・創業等支援事業「那覇市中心市街地活性化シンポジウム」／内閣府沖縄総合事務局 2005. 11

司会：第32回土木計画学研究発表会（秋大会）／社土木学会 2005. 12

講演、司会：Current Japanese Effort on CDM Project Development in Transportation Sector」、運輸分野におけるCDM事業フォローアップ・セミナー（バンコク）／国土交通省・社海外運輸協力協会・タイ運輸省 2005. 12

講演：「Report on International Follow-up Seminar “Promotion on Clean Development Mechanism in Transport Sector and Bio-Diesel Fuel Project Perspectives in Thailand”」第2回アジア・バイオマス・ワークショップ（バンコク）／産業技術総合研究所 2005. 12

■ 柳沼善明 教授

司会：第14回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム／社プレストレストコンクリート技術協会 2005. 11

■ 吉川勝秀 教授

講演：「川からの都市再生ー日本と世界の先進事例からー」／名古屋都市センター第3回まちづくりセミナー講演 2005. 3. 16

報告者・パネラー：地球規模水循環変動シンポジウム／内閣府総合科学技術会議 2005. 5. 23

基調講演：「多自然型川づくりを越えて」／四万十・流域圏学会第5回大会 2005. 5. 28

総合討論コーディネータ：ワークショップ・流域圏プランニングの理論と実際／リバーフロント整備センター主催 2005. 6. 24

基調講演：「川からの地域づくり・都市再生ー日本と世界の先進事例からー」／千葉県・市町村河川行政シンポジウム 2005. 7. 7

パネラー：ワークショップ・日韓水辺環境の国際情報ネットワーク／リバーフロント整備センター主催 2005. 7. 27

報告者・パネラー：自然共生型流域圏・都市再生シンポジウム／内閣府総合科学技術会議 2005. 8. 24
論文発表：都市河川再生国際会議／ドイツ・ドレスデン 2005. 9. 23
委員：アジアの水辺環境情報ネットワークに関する国際会議／リバーフロント整備センター主催 2005. 10. 28
基調講演：「これからの時代の流域圏構想」／不知火・球磨川流域圏学会設立総会 2005. 10. 29
研究講演：「アメリカにおける建設工事の安全管理について」／第24回全国労務安全研究交流会 2005. 11. 2
講演および総合討論座長：ワークショップ・「自然と共生した流域圏・都市の再生」／ワークショップ実行委員会・内閣府共催 2005. 11. 17
基調講演：「流域の将来を展望する」／農林水産省 平成17年度「自然共生」プロジェクトシンポジウム 2005. 12. 2

■ 下辺 悟 助教授

座長：(社)土木学会第60回年次学術講演会第Ⅲ部門 土の物理化学的性質／(社)土木学会 2005. 9. 7

■ 轟 朝幸 助教授

講演：空港計画の今日的課題—魅力ある空港づくりをめざして—／九十九里沖空港誘致懇話会 2005. 3
司会：第49回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部 2005. 11
司会：第32回土木計画学研究発表会／(社)土木学会 2005. 12

■ 藤井敬宏 助教授

講演：「公共交通を重視した施策の展開について」／市原市市議会館 2005. 7

報告：「都市部の道路交通環境対策の影響評価」／文部科学省学術フロンティア推進事業：環境・防災都市に関する研究—大都市の環境性能と環境制御に関する研究— 報告会、日本大学理工学部 2005. 7
講演：「Traffic problem by Progress of Motorization in Japan」／ヴェトナム・ハノイ建築大学 2005. 7
出前講座（講義および体験学習）：「バリアって？そして私たちにもできること！」／千葉県市原市南総中学校 2005. 12

■ 小早川悟 専任講師

司会：The Seventh International Summer Symposium／(社)土木学会 2005. 7. 30

■ 安井一彦 専任講師

コメンテーター：ストップ・ザ・交通事故／千葉県・千葉県警察 2005. 9. 22
講師：交通技術必携講習会講師（5章交通管理）／(財)建設物価調査会 2005. 10. 20、25
座長：第4回ITSシンポジウム2005／ITS-JAPAN 2005. 12. 1

■ 江守 央 助手

講演：「総合医療センターとみちづくり」／八千代バリアフリーフォーラム活動報告会 2005. 4. 9

■ 野水雅之 副手

司会：第49回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部 2005. 11

海外出張

教員名	出張期間／出張目的／訪問国
伊東 孝 教授	2005年2月14日～21日／エッフェル資料調査／フランス 2005年3月14日～22日／ORC整備事業のためのベトナム各都市の近代遺産および史料調査／ベトナム 2005年8月12日～26日／英国ロンドンとドイツでの博物館および遺産調査／イギリス、ドイツ 2005年8月28日～9月4日／中国三江および江南地区の橋梁調査／中国 2005年12月23日～26日／高雄と台南の近代遺産調査／台湾
岩井茂雄 教授	2005年8月7日～9月1日／理工学部海外語学研修引率／カナダ 2005年9月20日～22日／清溪川再開発事業視察（ゼミナール合宿）／韓国
福田 敦 教授	2005年1月8日～14日／84th Transportation Research Board／アメリカ 2005年1月23日～27日／(財)海外運輸協力協会 H16年度地球環境問題解決のためのクリーン開発メカニズム（CDM）推進事業に係る協議／タイ 2005年3月13日～19日／(財)海外運輸協力協会 運輸分野におけるクリーン開発メカニズム（CDM）事業に関するワークショップ／タイ 2005年7月7日～10日／(社)東亜科学技術協力協会 温室効果ガス削減戦略専門家会議／台湾 2005年8月8日～9月2日／(財)道路新産業開発機構、ドライビングストップ装置によるクリーン開発メカニズム（CDM）事業に実施可能性に関する調査／タイ 2005年9月19日～26日／アジア交通学会に参加／タイ 2005年10月11日～17日／タイ自動車技術会 小型エンジン技術会議（Small Engine Technology Conference 2005（SETC 2005））／タイ 2005年12月10日～15日／国土交通省総合政策局 クリーン開発メカニズムフォローアップセミナー／タイ
吉川勝秀 教授	2005年9月21日～27日／都市河川再生国際会議／ドイツ、チェコ 2005年9月29日～10月2日／韓国チョンゲチョン竣工式／韓国
藤井敬宏 助教授	2005年7月17日～22日／ハノイ建築大学との学術研究発表会（講演）／ベトナム
小早川悟 専任講師	2005年8月20日～2006年8月10日／日本大学海外派遣研究員（リーズ大学）／イギリス
安井一彦 専任講師	2005年9月1日～6日／交通管理方策に関する研究打ち合わせ（ソウル市政開発研究院）／韓国

	2005 年 10 月 28 日～11 月 1 日／交通安全施設の実態調査／中国
	2005 年 12 月 7 日～12 日／交通安全施設の実態調査／中国
江守 央 助手	2005 年 9 月 19 日～9 月 26 日／発展途上国の交通体系およびバリアフリー調査、ならびに津波復興調査／タイ
岸上明子 助手	2005 年 8 月 18 日～27 日、2006 年 3 月 6 日～19 日／PCM 手法を用いたコミュニティレベルでの防災計画に関する研究／フィリピン

助成研究・委託研究

助成金名・委託元など（研究期間） 研究課題	教員名
ORC 整備事業（2001. 4～2006. 3） 文化遺産保護・修復プロジェクト実行委員会	伊東 孝 教授 他 14 名
科学研究費補助金（2004. 4～2005. 3） 土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義―高速道路に焦点をあてて―	伊東 孝 教授（研究代表者） 他 6 名
日本大学理工学部特別推進研究費（2005. 4～2006. 3） 中国東北地方（旧満州）の近代土木遺産に関する日中共同調査研究―吉林省を中心として―	伊東 孝 教授（研究代表者） 他 5 名
山田マシンツール(株)（2005. 7～2006. 3） 低騒音型マシンツールの開発・研究	岩井茂雄 教授（研究代表者）
(財)国際交通安全学会（2004. 4～2005. 3） 開発途上国におけるオートバイの都市交通手段としての役割と限界に関する研究（Project H637）	福田 敦 教授（研究代表）
(社)日本鉄鋼連盟（2004. 5～2005. 9） 小型車専用立体交差導入に関する研究	福田 敦 教授
(財)国土技術研究センター（2004. 10～2005. 3） シミュレーションソフトを活用した総合的な道路交通環境改善施策の評価	福田 敦 教授（研究代表）
(財)福山コンサルタント（2005. 2～2005. 4） 大都市交通問題対策検討に関する調査研究	福田 敦 教授（研究代表）
(財)国際交通安全学会（2005. 4～2006. 3） 交通安全教育の手法と評価法の研究（Project H743A）	福田 敦 教授 他 4 名
(財)国際交通安全学会（2005. 4～2006. 3） エコロジカルな交通システムの開発途上国への普及方策（Project H745）	福田 敦 教授 他 3 名
(財)国際交通安全学会（2005. 4～2006. 3） タイにおける交通安全施策への支援（Project H749）	福田 敦 教授（研究代表）
日本工営(株)（2005. 4～2006. 3） タイにおける ITS の展開可能性に関する研究	福田 敦 教授（研究代表）
(株)日本工業試験所（2005. 7～2005. 12） ゴムラテックス複合構造に関する実験的研究	星埜正明 教授
科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（JST／CREST）（2003. 4～2007. 3） 人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオ研究	吉川勝秀 教授
法政大学学術フロンティア（2004. 4～ ） 都市における水辺空間の再生に関する研究	吉川勝秀 教授（研究メンバー）
奨励寄付金（リバーフロント整備センター）（2005. 5～ ） 自然共生型流域圏・都市再生に関する研究	吉川勝秀 教授
日本大学学術研究助成金（2005. 4～2006. 3） 公共交通情報提供システムの利用データの活用方法について	轟 朝幸 助教授（研究代表）
日本大学理工学部学術研究助成金（2005. 4～2006. 3） 新潟中越地震後の交通及び通信網に関する研究	安井一彦 専任講師（研究代表）、轟 朝幸 助教授 木戸伴雄 非常勤講師
三井住友海上福祉財団（2005. 6. 1～2006. 5. 31） スキッドマークの付着状況を用いた交差点危険度評価手法の開発と適用	安井一彦 専任講師
(株)アイ・トランスポート・ラボ（2005. 6. 1～2005. 9. 30） 旅行時間予測に関する研究	安井一彦 専任講師
住友電気工業(株)（2004. 10. 1～2005. 3. 31） 交通管理方策に関する研究	安井一彦 専任講師

受賞

賞（受賞年月）	教員名
特許／配車システム 特原 2001-335339（2005 年 12 月 16 日）	高田邦道 教授 他

平成17年 学生の活動 2005. 1. 1 ~ 2005. 12. 31

主催者（受賞年月）／賞などの内容

受賞者氏名

- (社)土木学会東北支部、(社)土木学会景観・デザイン委員会主催（2005年1月31日）／2004年度「景観開花」設計競技 課題「新時代の橋梁デザイン」二次審査通過……………土川泰明（デザイン研究室）
- 卒業・修士設計展＋景観・デザイン教育展（2005年5月5日～7日）／作品展示 …………… デザイン研究室ゼミ生有志
- NPO 日本都市計画協会主催（2005年5月31日）／写真コンテスト 課題「ルーフスケープ（屋根景観）コンテスト」佳作
……………土川泰明（デザイン研究室）
- JFE スチール(株)（2005年9月26日）／ワークショップ 課題「蘇我臨海部におけるサステナブル・ハウジングの『かたち』とは——千葉県内建築系大学学生による住宅地開発計画のための設計提案——」佳作……………則本弘明、土川泰明（デザイン研究室）
- 船橋市主催（2005年6月）／船橋環境フェア参加 …………… 環境工学研究室一同
- 東京都東山小学校（2005年9、10月）／総合学習支援 …………… 環境工学研究室一同
- ゼミナール研修（2005年9月20日～22日）／清溪川再開発事業視察 …………… 環境工学研究室一同
- 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所（2004年6月～2005年3月）／日本橋学生工房 参加
……………伊藤香苗（交通システム研究室）
- 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所（2005年6月～2006年3月）／日本橋学生工房 参加
……………石坂哲宏・室井寿明（交通システム研究室）
- 日本大学（2005年3月）／日本大学優等賞 ……………大島良輔（交通システム研究室）
- 東京都港湾局（2005年5月～12月）／東京湾のあり方を考える懇談会 委員参加 ……………大島良輔（交通システム研究室）
- 駿博会（2005年7月）／駿博奨励賞 ……………石坂哲宏（交通システム研究室）
- (財)国際交通安全学会（2005年11月29日、30日、12月1日）／11th International Student Seminar On Transport Research Symposium MAKUHARI, JAPAN 委員参加 …………… Thaned Satiennam（交通システム研究室）
- (財)国際交通安全学会（2005年11月29日、30日、12月1日）／11th International Student Seminar On Transport Research Symposium MAKUHARI, JAPAN 委員参加 ……………大島良輔（交通システム研究室）
- (社)土木学会（2005年12月）／(社)土木学会第60回年次学術講演会優秀講演者賞「モリアオガエルのSIモデル構築に関する研究」
……………伊東英幸（交通システム研究室）
- (社)土木学会（2005年12月）／(社)土木学会第60回年次学術講演会優秀後援者賞「ゴムラテックスモルタルを合成した鋼床版の応力解析」
……………永生洋樹（構造工学第一研究室）
- 全国土木系女子学生の会（2005年11月19日、20日）／第18回定期総会参加
…………… 國枝佳那子、加藤雪子、伊東真沙美

TOPICS

共立出版刊『交通バリアフリーの実際』

社会交通工学科教員ら執筆

概要

交通バリアフリー法（2002年5月成立）に基づいて設計された実際の都市計画を例に、バリアフリー空間をいかに交通に確保するか、というテーマを道路管理、交通管理の視点からまとめあげました。交通バリアフリー法自体の解説本は多数出版されていますが、道路管理、交通管理の視点を重視している点では初の清書といえるのではないのでしょうか。また資料の部分では、実際に行政の担当者などが必要とする関連法律を抜粋してまとめています。

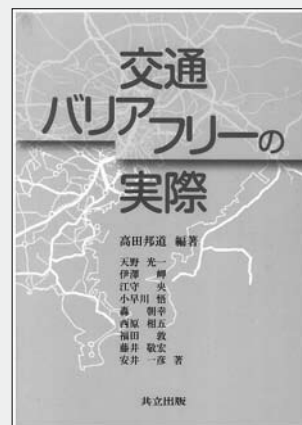
編著：高田邦道

共著：天野光一、伊澤 岬、江守 央、小早川 悟、轟 朝幸、西原相五、福田 敦、藤井敬宏、安井一彦

出版：共立出版

ISBN：4-320-07421-1

定価：2900円＋税



平成18年2月18日現在の平成17年度理工学部社会交通工学科卒業予定者数、および大学院理工学研究科社会交通工学専攻修了予定者の就職状況について、ご報告いたします。学部卒業予定者は133名、大学院修了予定者は21名です。学部生では進学21名、次年度就職予定者6名を除く、就職希望者106名中86名が就職し、就職内定率は81%となっております。また、大学院生では次年度就職予定者2名を除く、就職希望者19名中14名が就職し、就職内定率は74%です。

今年度の就職内定先の業種の特徴として、公務員合格者が学部生5名、大学院生1名と昨年度より大幅に減少したものの(昨年度実績：学部生11名、大学院生5名)、年度により波があるようです。しかし、鉄道関係で学部生が10名と例年より大幅に内定者が増加しています。また、情報・ソフトおよび物流関係は相変わらず好調で、例年並みの内定者数となっております。

本学科・専攻では、学生の就職活動の支援のため、下記のようなことを行っています。

1. 就職懇談会(毎年10～11月頃、大学キャンパス内で実施)
 - ・次年度就職希望する学部3年生および過年度生、大学院M1が主な対象

- ・担任および交通OBによる就職の全体説明、交通OB・OGによる業種別の説明会
- ・業種別エリアでの個別相談および懇親会
- 2. 学科HP(ホームページ)を利用した求人情報の公開
 - ・従来の学科事務室を通した求人情報の掲示・閲覧過程を迅速・簡素化
 - ・最新の求人情報(業種全体、業種別)をリアルタイムで更新・掲載
 - ・随時、教員や学生が所定のIDおよびパスワードで閲覧可能
- 3. 同HPを利用した公務員志望者の交流会窓口の設置
 - ・情報交換の場の設置
 - ・勉強会の啓発および実施
- 4. 担任および指導教授による個別相談
 - ・学部、大学院クラス担任およびゼミナール、卒業研究、修士論文の指導教授による個別相談ならびに調整
- 5. その他
 - ・交通OB訪問による談話会の実施(随時対応)

本学科卒業生の業種別就職状況

平成18年2月18日現在

業種	卒業年度		S50～	S60～	H7～H11		H12		H13		H14		H15		H16		H17	
			S59	H6	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
公 務 員			235	215	74	23	9	4	10	2	10	2	4	4	11	5	5	1
公 社・公 団			20	33	4	6	0	3	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
建 設 業			547	435	215	15	16	5	27	1	27	2	8	3	12	2	12	5
コンサルタント			236	271	163	36	9	3	7	2	8	2	6	4	7	3	8	4
情 報・ソ フ ト			0	60	46	8	34	2	29	1	31	1	13	4	21	1	14	0
運輸	鉄 道		42	23	5	8	0	0	2	0	2	0	5	1	4	0	10	0
	物 流		72	71	21	2	7	1	17	1	17	1	14	0	13	3	18	0
製造	橋梁・金属		0	11	5	2	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0
	材 料		0	6	8	2	2	0	3	0	4	0	0	1	3	0	1	0
	交 通 関 係		0	29	16	5	2	4	1	2	1	2	1	2	1	0	1	1
不 動 産			18	17	8	0	3	0	5	1	5	1	7	2	1	1	3	0
保 険・金 融			0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	1	1
学 校			20	28	2	2	4	0	8	3	9	3	1	0	0	1	1	1
自 営			50	27	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
そ の 他			178	232	47	9	15	0	6	0	4	0	7	2	31	4	11	1
進 学			80	185	147	10	17	0	21	2	22	2	27	0	22	3	21	0
未 定・不 明			111	15	78	11	34	3	15	4	10	3	26	4	7	0	26	7
卒 業 者 数			1,609	1,665	852	139	152	25	153	19	153	19	123	27	136	24	133	21

注) 平成17年度の未定・不明欄の学部26名のうち6名、および大学院7名のうち2名は次年度公務員試験等受験者。

平成17年度 就職内定先一覧

平成18年2月18日現在

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
進学	日本大学大学院(社会交通工学)	18	0
	東京大学大学院	1	0
	横浜国立大学大学院	1	0
	愛知学院大学大学院	1	0
進学計		21	0
公務員	警視庁交通技術職	1	0
	高崎市役所	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	浜松市役所	1	0
	横須賀市役所	0	1
	警視庁警察官	1	0
	千葉県警察官	1	0
公務員計		5	1
建設業	大倉建設	1	0
	兼松日産農林	0	1

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	河本工業	1	0
	首都高速道路	0	1
	昭和	0	1
	大成設備	1	0
	竹中道路	1	0
	中央労働金庫	1	0
	東エン	0	1
	東亜道路工業	1	0
	東鉄工業土木線路部門	1	0
	真柄建設	1	0
	ヤマセン	1	0
	ユニオン建設	1	0
	SRG タカミヤ	1	0
	その他建設	1	1
建設業計		12	5
コンサルタント	アコフィック環境	1	0
	アーバン・トラフィック・エンジニアリング	1	0
	オリエンタルコンサルタント	0	1
	開発技研	1	0
	東光コンサルタント	0	1
	東洋技研コンサルタント	1	0
	日本空港コンサルタンツ	0	1
	非破壊検査	0	1
	三井造船システム技研	1	0
	ライテック	2	0
	NIPPO コーポレーション	1	0
コンサルタント計		8	4
物流	カンダコーポレーション	1	0
	キューソー流通システム	1	0
	航空集配サービス	1	0
	佐川急便関東支社	1	0
	センコー	1	0
	西濃運輸	1	0
	日本通運	2	0
	富士物流	1	0
	福山通運	1	0
	丸和運輸機関	1	0
	三菱電機ロジスティクス	3	0
	ヤマタネ	1	0
	リコーロジスティクス	3	0
物流計		18	0
情報・ソフト	大塚商会	1	0
	関東コウワ	1	0
	キャドセンター	1	0
	常盤システムエンジニアリング	1	0
	東京コンピュータサービス	1	0

お詫びと訂正

平成 18 年 1 月 31 日発行の交通 Bulletin 秋号 No. 9 「「わだちの会」が新体制へ」の記事におきまして、誤りがありました。以下のとおり訂正とお詫び申し上げます。

正) 理工学部校友会交通部 部長：津越由康
常任幹事：川口芳夫、森下庄三、勝田 実、
神谷 昇、下川澄雄
誤) 理工学部校友会交通部 部長：川口芳夫
常任幹事：森下庄三、勝田 実、神谷 昇、下川澄雄

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	トライアルカンパニー	1	0
	日新情報システム開発	1	0
	日信電子サービス	1	0
	ハイテックスシステム	1	0
	日立インフォネット	1	0
	富士ソフト ABC	1	0
	プレステン	1	0
	NTT データフロンティア	1	0
	NTT データシステム技術	1	0
情報・ソフト計		14	0
不動産	東急リゾート	1	0
	三井物産ハウステクノ	1	0
	三菱地所ビルマネジメント	1	0
不動産計		3	0
鉄道	JR 東日本東京支社	1	0
	JR 東日本千葉支社	1	0
	JR 東日本高崎支社	1	0
	JR 貨物	1	0
	西日本旅客鉄道	3	0
	東京急行電鉄	1	0
	東京地下鉄	2	0
鉄道計		10	0
製造	マイコール	1	0
	東洋アクア工業	1	0
	その他	0	1
製造計		2	1
学校	日本大学理工学部社会交通工学科	0	1
	その他	1	0
学校計		1	1
保険・金融	中央労働金庫	1	0
	中央損保鑑定事務所	0	1
保険・金融計		1	1
その他	テラケン	1	0
	大黒屋	1	0
	大川	1	0
	銀座伊東屋	1	0
	シャイニングサービス	1	0
	日研総業	1	0
	パーク 24	1	0
	CBM	1	0
	その他	4	1
その他計		12	1
未：公務員等	来年度公務員等を受験予定	6	2
未定		20	5
総計		133	21

7214 号室

教室事務室

越川 静子

〒 274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1

Tel. 047-469-5239 Fax. 047-469-2581

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>

